令和5年度
「熊本の学び」取組事例集

【理念】
熊本のすべての子供たちが、
「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」
を身に付けることを目指します。

1　参考指標の向上に関する事例

・参考指標1「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」
・参考指標2「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」
・参考指標3「授業の内容はよく分かりますか。（各教科において）」

2　「熊本の学び推進プラン」に関する事例

3　「熊本の学び」アクション・プロジェクトに関する事例

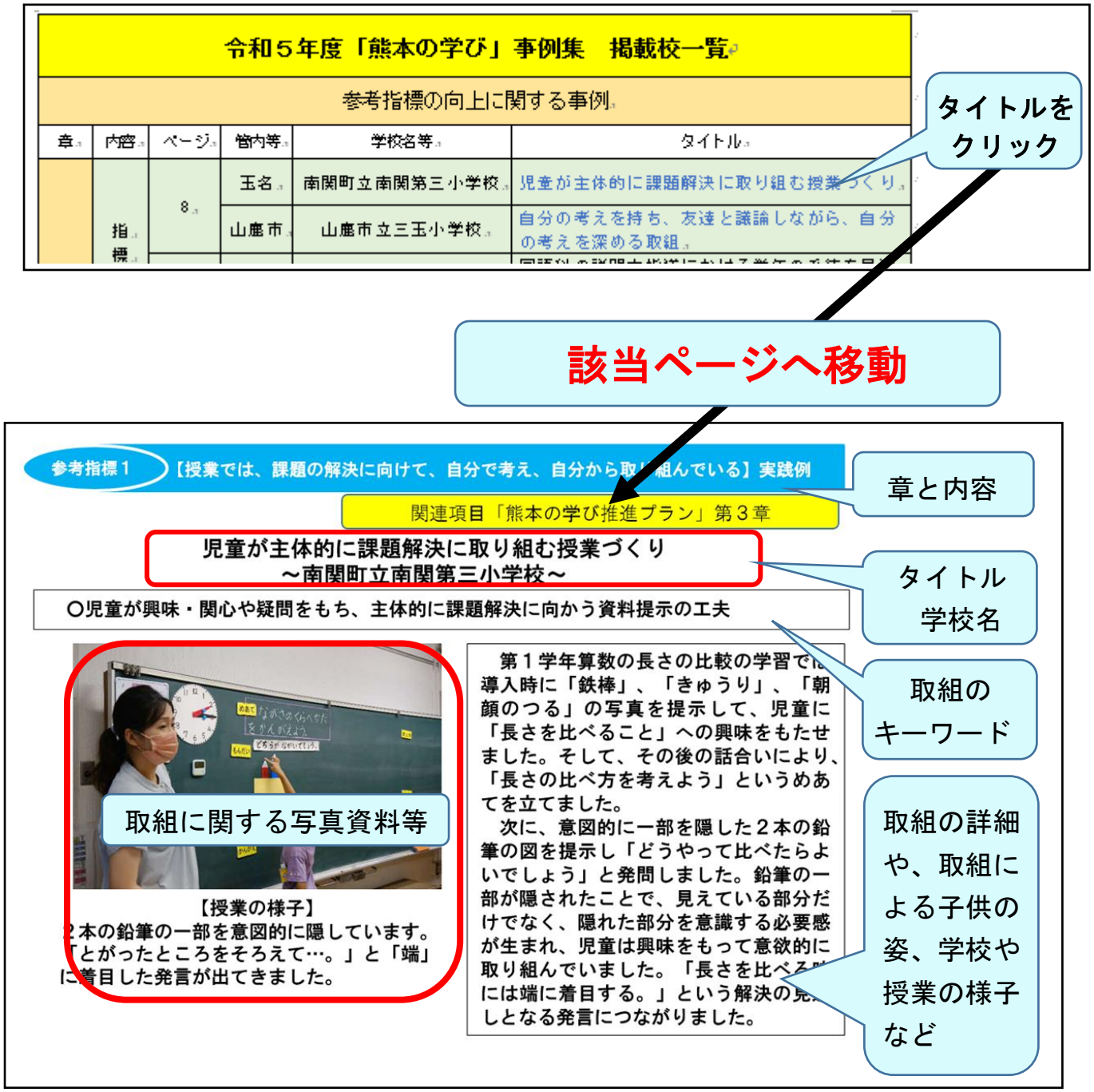
・柱1「誰一人取り残さない学びの保障」
「個に応じた指導・習熟度別指導の拡充」「読み・書き・計算の習得の徹底」
「定着確認の徹底」「読解力向上の取組実践」
・柱2「教員一人一人の授業力向上
「学校運営に関する助言の強化」「授業観察の習慣化」
「校内研修内容の重点化」「構想・省察の習慣化

令和6年（2024年）2月

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

—事例の探し方—

次ページ以降の「掲載校一覧」の各掲載校の「タイトル」をクリックしますと、その該当ページに移動します。



熊本の子供たちの「能動的な学び」につながる各学校の特色ある取組を全102事例紹介しています。校内研修や授業づくり、その他教育活動の参考としてご活用ください。

令和５年度「熊本の学び」事例集　掲載校一覧

参考指標の向上に関する事例

章	内容	ページ	管内等	学校名等	タイトル
参考指標の向上に関する取組	指標１　授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる	8	玉名	南関町立南関第三小学校	児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくり
			山鹿市	山鹿市立三玉小学校	自分の考えを持ち、友達と議論しながら、自分の考えを深める取組
		9	山鹿市	山鹿市立大道小学校	国語科の説明文指導における学年の系統を見通した取組
			山鹿市	山鹿市立鹿北中学校	本時のめあてを達成するために、個人およびペア学習の充実を図る取組
		10	菊池	大津町立大津北小学校	学習リーダーを中心とした学び合いを通して、主体的に問題を解決する取組
			阿蘇	阿蘇市立阿蘇西小学校	子供たち自らが問いを見いだす導入の工夫
		11	阿蘇	阿蘇市立阿蘇西小学校	「子供が学びの主体」となる課題解決型学習の授業デザイン
			阿蘇	小国町立小国小学校	学習者用デジタル教科書を活用した、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けた取組
		12	上益城	益城町教育委員会	小中連携による「たのしく、ためになり、ためしてみたくなる（サンタの）授業」への挑戦
			八代	八代市立植柳小学校	子供が「分かった！」「できた！」を実感する授業の創造
		13	芦北	水俣市立袋小学校	自己選択・決定の場の設定による児童の主体性を育てる取組
			球磨	錦町立木上小学校	主体的に学習に取り組み、自分の考えや思いを表現する取組
		14	天草	天草市立河浦小学校	個別最適化された授業への取組
			天草	上天草市立今津小学校	授業づくりの３つの視点と「聴く」を中心とした授業への取組
	指標２　家で自分で計画を立てて勉強をしている	15	宇城	美里町立中央中学校	学校独自の「石段ノート」を活用した自ら取り組む家庭学習に向けた取組
			玉名	長洲町立長洲中学校	「単元のゴールの姿」に向け、ペア学習や家庭学習等を活用し、学習意欲を高めていく取組
		16	山鹿市	山鹿市立菊鹿小学校	家庭学習の習慣化に向けた取組
			山鹿市	山鹿市立山鹿中学校	一日の学習を振り返り、自分で計画を立て家庭学習を進める取組
		17	菊池	菊池市立泗水東小学校	家庭学習の取組を「わかった・できた」につなげ子供が学び方を学ぶための手立て
			阿蘇	南小国町立市原小学校	学校と家庭をつなぎ、自ら計画を立てて勉強する取組
		18	上益城	山都町立矢部中学校	生徒の主体性を高めるためのプランニングタイムの見直しと１人１台端末の活用
			八代	八代市立第三中学校	家庭学習習慣の定着を図るための帰りの会（轍（わだち）タイム）の取組

		19	芦北	芦北町立佐敷中学校	事前の計画と「めあて」と「まとめ」を用いることで、生徒の主体的な家庭学習につなげる取組
			球磨	多良木町立多良木中学校	生徒が見通しをもって学習計画を立て、意欲的・継続的に学習する取組
		20	天草	天草市立牛深東中学校	生徒が自らの学びの姿を知り、学習習慣を形成するための取組
	指標３　授業の内容はよく分かる	21	玉名	南関町立南関中学校	生徒が分かる喜びを感じ、学びに向かう力を向上させる取組
			菊池	合志市立西合志南中学校	バックワードデザインによる効果的な英語力の定着に向けた活動
		22	上益城	益城町立飯野小学校	授業の振り返りの充実を図る視点提示と構造的な板書の工夫
			上益城	山都町立清和小学校 山都町立清和中学校	「学びの種」の活用と「わっ（協働学習）」の充実
		23	八代	氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校	「分かった」「できた」へとつなげる学習支援の取組
			芦北	芦北町立佐敷小学校	「自己と向き合う時間」「他者と向き合う時間」の確保による授業改善の取組
		24	球磨	人吉市立大畑小学校	「大畑小版『熊本の学び』推進プラン」による授業改善の取組
			天草	苓北町立坂瀬川小学校	すべての児童に「分かった」「できた」を実感させるペア・グループ学習の設定
「熊本の学び推進プラン」に関する事例					
第２章　カリキュラム・マネジメントの推進	教職員による連携・協働	25	山鹿市	山鹿市立山鹿小学校	図書館教育の充実
			山鹿市	山鹿市立鹿北小学校	自分の成長を実感できる振り返りの取組
		26	八代	氷川町立竜北中学校	全学調の問題分析と授業改善をつなげる取組
			球磨	相良村立相良南小学校	健康教育を核としたカリキュラム・マネジメントの推進
		27	天草	天草市立天草中学校	校内研修の充実
	目指す子供の姿を五者で共有		宇城	宇城市立豊野小学校 宇城市立豊野中学校	ひまわり園プロジェクト
		28	宇城	宇土市立緑川小学校 （宇城市立住吉中学校区）	３校２園連絡会による学びと育ちを支える連携
			玉名	荒尾市立万田小学校	当事者意識を持った五者が「社会に開かれた教育課程」を実現させる組織体制
		29	阿蘇	南阿蘇村立白水小学校	学校運営協議会・地域と学校が連携した地域交流会実施の取組
			阿蘇	阿蘇市立一の宮中学校	「目指す生徒像」を地域や保護者と確立し、共有する取組
		30	阿蘇	産山村立産山学園	９年間の学びの系統を踏まえ、子供たちが身に付ける資質・能力を明確にする取組
			上益城	益城町立益城中学校	五者連携によるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進

	定期的な振り返り	31	山鹿市	山鹿市立米野岳中学校	「学習の５本柱」を設定し、振り返りながら具体的な個人の実践目標を決めていく取組
			天草	天草市立御所浦小学校	R-PDCA サイクルと学級経営案の一体化
第３章　学びを深める授業改善に関する事例	単元デザインの工夫	32	阿蘇	阿蘇市立一の宮中学校	学びをつなげるための「振り返り」をいかした学習課題の設定
			阿蘇	西原村立西原中学校	生徒が「単元のゴール」を意識するための取組と授業スタイルの徹底
		33	阿蘇	産山村立産山学園	単元で学んだことを生かして解決する学習活動の設定
			阿蘇	高森町立高森東学園義務教育学校	デジタルシートを活用した学びを調整する力の育成
	導入の工夫	34	山鹿市	山鹿市立めのだけ小学校	主体的な学びをつくる導入の工夫
	展開の工夫		玉名	玉名市立横島小学校	児童の思考を促し、学習を深める取組
		35	阿蘇	南阿蘇村立南阿蘇中学校	学びの主体となる生徒のアウトプットを軸にした授業づくり
			芦北	芦北町立湯浦小学校	伝え合い、互いに学び合う力を育成するための取組
		36	球磨	人吉市立西瀬小学校	「教師が教える授業」から「子供たちとつくる学びの場」への授業改善の取組
	終末の工夫		宇城	宇城市立当尾小学校 宇城市立豊福小学校	１人１台端末を活用し、自己の学びや伸びを実感したり振り返ったりする取組
		37	阿蘇	西原村立山西小学校	振り返りを、学びの自覚・意欲に繋げる取組
	ＩＣＴの効果的な活用		山鹿市	山鹿市立鹿北小学校	児童の読みを可視化し、違いを基に学びを深めるＩＣＴの活用
		38	菊池	大津町立大津小学校	共同編集機能を活用した振り返りの実践
			上益城	益城町立益城中央小学校	「社会的な見方・考え方」を働かせるＩＣＴ活用の工夫の取組
		39	上益城	甲佐町立乙女小学校	自分の考えをもち、進んで表現する児童の育成に向けた、学習過程に応じたＩＣＴ活用の工夫
			八代	八代市立第二中学校	ＩＣＴを活用して主体的に学ぶ生徒の育成に向けた授業等の取組
第４章　学力向上検証改善サイクルに関する事例	教師の授業デザイン	40	宇城	宇土市立宇土小学校	児童の「問い」から始まる「学習カレンダー」による単元デザイン
			玉名	長洲町立腹栄中学校	アウトプット重視による主体性の育成と問題解決能力の向上
		41	阿蘇	南阿蘇村立 南阿蘇西小学校	地域人材や他校との交流を取り入れた「生活科」の単元デザインにおける取組
	サイクルの学校化		阿蘇	産山村立産山学園	自校の学力向上検証サイクルを活用した年間を通した取組
		42	上益城	甲佐町立甲佐中学校	生徒が個別学習やグループ学習で主体的に学ぶ「１ＵＰタイム」の取組
	子供たちの学びのデザイン		阿蘇	小国町立小国小学校	調べたことを整理することで学習課題を見いだし、解決に向かう取組
		43	阿蘇	阿蘇市立一の宮中学校	多面的・多角的な視点を取り入れるための話合い活動の充実への取組
			球磨	多良木町立黒肥地小学校	自分で決めて取り組む朝自習と家庭学習の取組

第５章　子供たちの学習慣形成を促す取組に関する事例	学習慣形成と家庭との連携	44	阿蘇	南阿蘇村立久木野小学校	よりよい家庭学習の習慣化への取組
			上益城	御船町立七滝中央小学校	健康や成長のために大切な「すいみん」をしっかりとるための取組
		45	球磨	球磨村立渡小学校	家庭学習の質的向上を図る学校と家庭の二人三脚の取組
	ＩＣＴを活用した家庭学習		菊池	菊陽町立菊陽中部小学校	Web アンケートを用いた家庭学習と授業の連携
		46	阿蘇	南小国町立 りんどうケ丘小学校	１人１台端末を活用し、学習意欲と学力の向上を目指した家庭学習の取組
			阿蘇	高森町立高森中学校	授業と家庭学習の連動を意識した取組
「熊本の学び」アクション・プロジェクトに関する事例					
柱１　誰一人取り残さない学びの保障に関する事例	個に応じた指導等	47	山鹿市	山鹿市立山鹿小学校	基礎･基本の習熟を目的とした帯学習「やまがタイム」実施の取組
			山鹿市	山鹿市立菊鹿中学校	学習の意欲付けと、個に応じた学力充実の取組
		48	山鹿市	山鹿市立鹿本中学校	英語と数学における少人数授業の取組
			上益城	山都町立蘇陽南小学校	子供たちに基礎的・基本的事項を身に付けさせるための複数体制での取組
	読み・書き・計算の習得	49	芦北	水俣市立水東小学校	目的・手段等を明確にした活動の場の設定による漢字・計算大会の取組
			芦北	津奈木町立津奈木中学校	基礎・基本が身に付くまで学校全体で組織的に粘り強く指導する取組
	定着確認の徹底	50	宇城	宇城市立松橋中学校	授業開始１０分間の積み重ねで基礎・基本の定着を図る取組
			菊池	菊陽町立菊陽中学校	県学力調査の分析と誰一人取り残さない授業づくりの取組
	読解力向上の取組実践	51	阿蘇	西原村立河原小学校	意見に説得力をもたせる「確かな読み」の力を鍛え、読解力向上を目指す取組
			八代	八代市立八千把小学校	自分の考えを広げ深めるノート・ワークシート作成の取組
		52	八代	八代市立八千把小学校	全文シートによる音読、書き込みで自分の読みをつくる取組
			球磨	五木村立五木中学校	読解力・コミュニケーション能力の向上を目指した取組
柱２　教員一人一人の授業	助言の強化	53	球磨	球磨教育事務所	管内の中学校・義務教育学校（後期課程）への学力向上対策支援訪問の取組
	授業観察の習慣化		宇城	宇城市立松橋中学校	「８つのチェックリスト（授業省察シート）」を活用した改善状況の共有
		54	山鹿市	山鹿市立八幡小学校	学び合いで授業力アップ～ＩＣＴを活用した授業相互観察の取組～
			山鹿市	山鹿市立鹿北中学校	日常の授業を参観し、互いに気付きを伝え合い、授業力向上を目指す取組
		55	芦北	水俣市立久木野小学校	日常的な授業観察及び指導・助言の取組
			天草	天草市立新和小学校	管理職や担任相互の授業参観とその成果の共有等の取組

力向上に関する事例	校内研修内容の重点化	56	玉名	玉名市立玉陵小学校	児童が「学びの主体」となる授業につながる取組
			山鹿市	山鹿市立鹿本小学校	児童の「〇〇したい」が生まれ、生き生きと学ぶ算数科授業の取組
		57	菊池	合志市立合志中学校	主体的・対話的な校内研修の工夫
			阿蘇	阿蘇市立阿蘇西小学校	「熊本の学び」ステップ・アップ研修による取組
		58	上益城	嘉島町立嘉島中学校	職員の全員参加による協働的な校内研修とその手法を授業に取り入れる取組
			球磨	球磨教育事務所	各学校の学力向上に向けた特色ある取組の共有化
	その他	59	芦北	水俣市、芦北町、津奈木町全小中学校	「芦北・水俣学力向上対策協議会提言書」に基づく各学校の実態に応じた取組

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくり
～南関町立南関第三小学校～

○児童が興味・関心や疑問をもち、主体的に課題解決に向かう資料提示の工夫

【授業の様子】
２本の鉛筆の一部を意図的に隠しています。「とがったところをそろえて…。」と「端」に着目した発言が出てきました。

第１学年算数の長さの比較の学習では、導入時に「鉄棒」、「きゅうり」、「朝顔のつる」の写真を提示して、児童に「長さを比べること」への興味をもたせました。そして、その後の話合いにより、「長さの比べ方を考えよう」というめあてを立てました。

次に、意図的に一部を隠した２本の鉛筆の図を提示し「どうやって比べたらよいでしょう」と発問しました。鉛筆の一部が隠されたことで、見えている部分だけでなく、隠れた部分を意識する必要感が生まれ、児童は興味をもって意欲的に取り組んでいました。「長さを比べる時には端に着目する。」という解決の見通しとなる発言につながりました。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

自分の考えを持ち、友達と議論しながら、自分の考えを深める取組
～山鹿市立三玉小学校～

○話し合う場での、対話ツールのカードの活用

【授業の様子】
グループで話し合うときに、対話ツールのカード（机の中央）が提示されています。

対話ツールのカード（「どうして？」「たとえば？」「立場をかえたら？」などの対話を深めるための言葉が書き込まれたカード）を提示することで、自分たちで考えを深める授業の実現を図っています。この取組により、教師は児童の話し合いの様子を見取ることが容易になり、全体で考えを深めるための意図的な指名ができるようになりました。

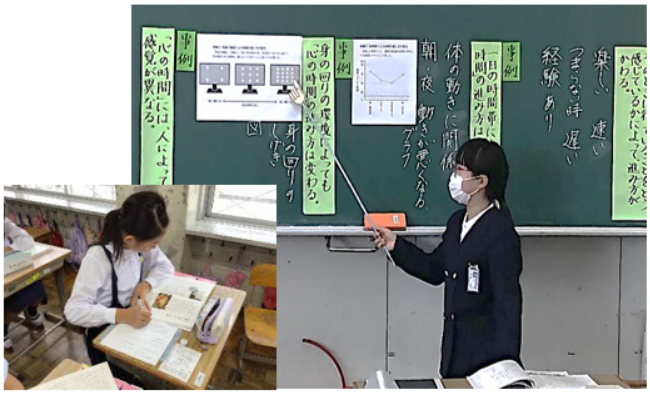
また、対話ツールのカードを活用する中で、カードの中の言葉だけでなく、児童が自ら対話を深める言葉を使って、お互いの考えを深めるようにしています。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び」アクション・プロジェクト」柱①

国語科の説明文指導における学年の系統を見通した取組
～山鹿市立大道小学校～

○説明文の学習用語の定着
○文章全体の構成を捉え、内容を把握する力の育成



【授業の様子】
説明文の授業では、主張（筆者の考え）を必ず板書し、主張と事例の関係を読み取りました。

国語の説明文教材の研究授業を行い、各学年で身につける基礎・基本を段階的・系統的に指導しました。

授業では、国語の説明文指導に必要な筆者、問い、形式段落、事例、主張、要旨など学習用語の板書カードを作成し、児童が、学習用語を意識して使うようにしています。

説明文では、内容の中心となる文にサイドラインを引いて読むように指導しました。全体の構成を捉えて、主張（筆者の考え）を明確にし、事例を精読して主張との関係を読み取り、内容を把握する力を育成しています。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

本時のめあてを達成するために、個人およびペア学習の充実を図る取組
～山鹿市立鹿北中学校～

○個人で学び考える時間の確保
○他の意見を聞き、自分の考えと比較し、返しを意識したペア学習の充実

【個人で学ぶ】

【ペアで学ぶ】

【個別支援】

【班活動 意見交換】

授業では、最初に生徒が自分で考え、調べ、課題解決を目指す時間を設定しています。生徒は、本時のめあてを達成するために問題と向き合うことで、「教えてもらう」から「自ら学ぶ」へ学習態度の変容が見られています。また、この取組により学習意欲の向上につながっています。

ペア学習では、理解できない問題等をそのままにせず、協力しながらの学び合いが行われています。クラス全体でめあての達成に向けて進んでいく姿が多く見られます。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

学習リーダーを中心とした学び合いを通して、主体的に問題を解決する取組
～大津町立大津北小学校～

○学び合いながら解決に向かうための、学習リーダーを中心とした授業づくり
○学習リーダーに向けた「学習の手引き」の作成と活用

【授業の導入で「めあて」を設定する様子】
学習リーダーが中心となって、これまでの学びや新たな課題について学級全体で考え話し合いながら「めあて」を設定しています。

学習リーダーが中心となってめあてを設定することで、児童自らが課題の解決に向けて主体的に取り組むことができるようになりました。教師主導の進行場面が減ったことにより、児童同士の対話が増えるとともに、教師の支援を要する児童に関わる時間が確保できるようになりました。

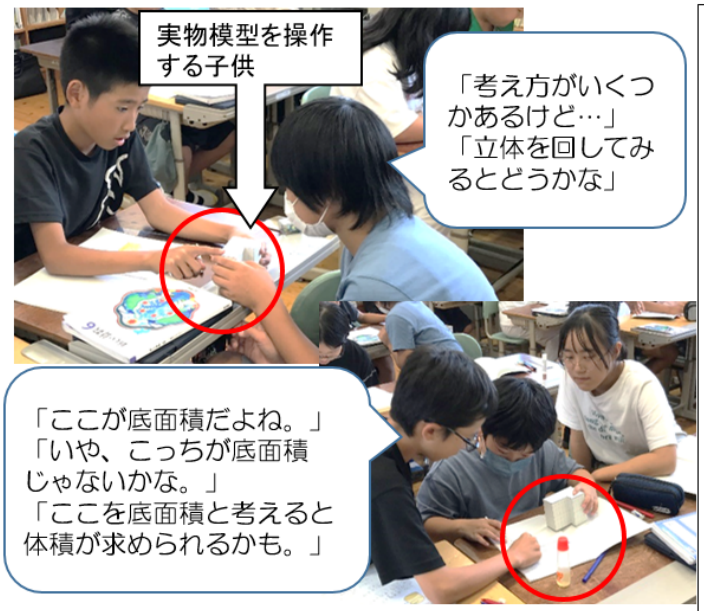
また、授業の進め方を例示した「学習の手引き」の活用により、どの児童も安心して学習リーダーとして学習を進めることができています。本取組の継続により、「学習の手引き」に記された言葉を使うばかりではなく、児童自らが主体的に考え、発信する授業を展開できるようになりました。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

子供たち自らが問いを見いだす導入の工夫
～ 阿蘇市立阿蘇西小学校～

○導入での、子供たち自らが問いをもつ「発問」の工夫
○見通しをもたせる「めあて」の工夫



【対話しながら課題解決に取り組む様子】

導入において、子供たちからつぶやきを引き出し、子供たち自らが問いをもつことができるように発問を工夫しています。第６学年算数「図形」の単元では、「これまでと違うところはどこかな。」と既習を想起させる発問を行いました。

課題解決の見通しがもてるめあての工夫として、「体積を求める公式が使えるか、図や式、単位分数を使って説明しよう。」のように、子供たちが算数の言葉を使って考えることができるようなめあてを設定しました。

どこを底面積とするか考える際には実物模型を使って考えました。「学習したことを生かして３つの考え方がある。」などと子供の発言からは、「できるかも」「求めるぞ」という意欲の高揚が見られました。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第４章

「子供が学びの主体となる」課題解決型学習の授業デザイン
～ 阿蘇市立阿蘇西小学校～

○子供が見通しをもちながら主体的に学ぶための学習計画の見える化と学習リーダーの育成

【学習計画を「見える化」】

「前回の学習では、インタビューをして、分かったことをまとめることができたね。」
「今日の学習では、まとめたことから、自分たちの取組を考えることができそうだ。」

「～という意見が出ました。似ている考えやつながる考えはありませんか。」

【学習リーダーによる進行】

子供たちが見通しをもって学習に取り組むことができるよう、各教科や総合的な学習の時間等とのつながりを関連付けた学習計画を作成し、それを掲示するなどして、「見える化」を図っています。

また、子供を学びの主体にするために、学習リーダーが話合いを進めたり、一人学びの時間を十分に確保したりしています。さらに、言語活動を充実させるために、学び合いは、３人組を基本とし、一人一人が役割を担うようにしています。

このような取組により、子供たち同士で発言や思いをつないで協働解決に向かうなど、全ての子供たちが活躍できる授業が展開できています。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

学習者用デジタル教科書を活用した、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けた取組
～小国町立小国小学校～

○学習者用デジタル教科書を活用し、自分に合った表現方法を用いた個別最適な学び
○学習者用デジタル教科書を活用し、他者と伝え合い、考えを再構成する協働的な学び

【学習用デジタル教科書を活用した学びのサイクル】

国語では自分の考えをまとめる時間に、児童が学習者用デジタル教科書にある作者のインタビュー等の資料を活用することで、本文に込められた思いを自分なりに感じ取ることができています。また、本文抜き出し機能を使うことで、書くことに苦手意識がある児童でも、読み取ったことを簡単に構造図としてまとめるような個別最適な学びにつながっています。

自分の考えをまとめた後は、友だちと構造図を見せ合いながら考えを交流したり、クラウド上で共有しコメントを付けたりするなど、協働的な学びの場を設定しています。児童は友だちの考えや意見を参考にして、自分の考えを再構成します。

これらのサイクルを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指しています。

参考指標１ 【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第２章

小中連携による「たのしく、ためになり、ためしてみたくなる（サンタの）授業」への挑戦

～ 益城町教育委員会～

○「サンタの学習指導過程」の設定による小・中学校での共通実践
○「授業実践上のポイント１０」を意識した授業実践

サンタの学習指導過程

《自分の考えを　自分の言葉で　わかりやすく伝える！》

1 導入で「本時で何ができるようになればよいか」を明確に伝え、板書する。
2 学習活動では、①活動のねらい　②手順　③留意点をきちんと理解させる。
3 発問後、自力解決の場を必ず設定して、自分の考えを自分の考えでまとめさせる。
4 共同解決の場を設け、本時の目標に向かって学び合い高め合う授業を展開する。
5 チャレンジタイム等を設定して、本時の目標に対する評価を具体的に実施する。

サンタの学習　授業実践上の ポイント１０

1 本時の目標：「～ができる。」学習が、具体的に評価できる「行動目標」を設定する。
2 導入：「日常生活」に関連させ、「何ができるようになればよいか」を理解させる。
3 学習活動：「活動のねらい・活動の手順・活動上の留意点」を明確に伝える。
4 思考力・判断力：課題解決に向け、情報を収集・活用し、「自分の考え」を持たせる。
5 表現力：「自分の考え」を「自分の言葉」で、資料やKWを使ってまとめる力を育む。
6 セルフトーク：相手意識を持ち、「分かり易く」伝える為の「実践練習」をさせる。
7 発表：「KWや資料等」を活用して、読む発表から伝える発表への転換を図る。
8 練り上げ：個々の考えを「本時の目標」に向かって、学び合い高め合わせる。
9 チャレンジタイム：「本時の学習が身に付いたか」練習問題等に楽しく「挑戦」させる。
10 まとめ：「キーワード」等を活用して、本時の目標に沿った「まとめ」をする。

５つの「サンタの学習指導過程」を設定したことで、町内の全ての小中学校が、足並みを揃えて授業改善に向けた共通実践をできるようになりました。

また、授業では、「授業実践上のポイント１０」を活用し、相手意識をもち「分かりやすく」伝えるための実践練習を行うセルフトーク等を設定しています。児童生徒は、自分の考えを整理したり、理解を深めたりするとともに、自分の言葉で分かりやすく伝えようとする意欲が高まっています。

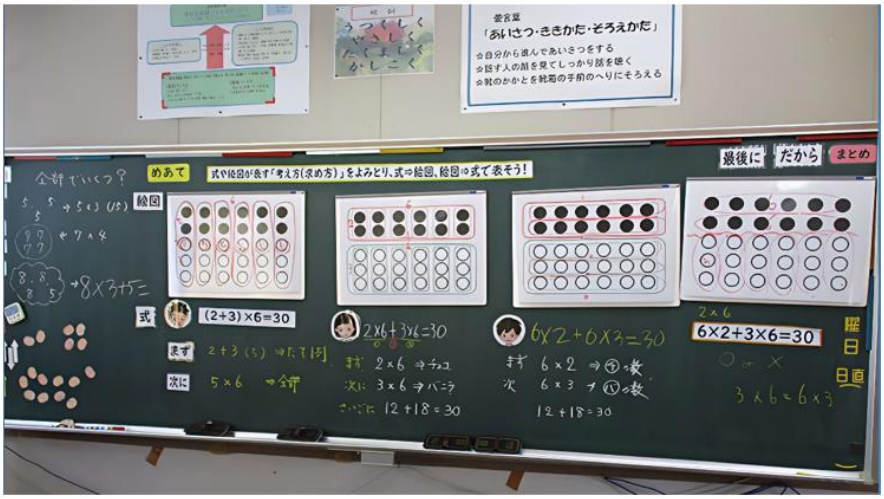
参考指標１ 【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第４章

子供が「分かった！」「できた！」を実感する授業の創造

～ 八代市立植柳小学校～

○自分の考えをもつために必要な情報を見つけ出す手立て
○学校独自の学力検証テストの定期的な実施と情報共有



【授業での板書】

板書には、子供たちが自由に書き込みができる図の掲示や、説明の手がかりとなる「まず」や「次に」などのキーワードが、視覚的に示されています。

必要な情報を見つけ出すために、教科書に色分けをして線を引くことや、ＩＣＴの効果的な活用による資料提示の工夫など、視覚的な手立てを多く設定しています。

自分の考えをもつ時間では、特に、苦手な子供への手立てとして、ヒントカードや穴埋め式のシートなどを使用しています。

全学年で共通の教科・領域別の学校独自の学力検証テストを定期に実施し、検証改善サイクルの学校化を図りました。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

自己選択・決定の場の設定による児童の主体性を育てる取組
～水俣市立袋小学校～

○「人権が尊重される授業づくりの視点」による「自己選択・決定の場の設定」
○「学習課題や計画の選択」「学習方法の選択」等を取り入れた、全職員の共通実践

視点３　自己選択・決定の場の設定

	ねらい	具体的活動・留意点
３－１	学習課題や計画を選択する機会を提供する。	①自分の関心や能力に合った目標（めあて）や計画を立てる機会を設定する。 ②学習の見通しを持って自ら計画をするため、ワークシートの活用などの支援を行う。
３－２	学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。	①単元の終末等に、学習内容を示し、自分の習熟の度合いや興味・関心に応じてその中から選択し、実際に活動する場を設定する。 ②自分の興味・関心に応じてテーマを設定し、インターネットや本、インタビューなどの方法を選択してテーマに迫る活動の場を設定する。
３－３	学習方法を選択する機会を提供する。	①自分の習熟の度合いに応じて、具体物を使ったり図をかいたり、友達や先生からヒントを得たりと、学習課題に対しての取組方法を選べる場を設定する。
３－４	表現方法を選択する機会を提供する。	①自分の考えや学んだことを表現する場面において、大型テレビやタブレット等のＩＣＴ、黒板等での説明、新聞やポスターなどの中から選んで表現できる場を設定する。
３－５	学習形態や場を選択する機会を提供する。	①ペア学習、グループ学習、自由対話など、多様な学習形態を示し、児童が選んで活動できる場を設定する。 ②自分の設定したテーマや学習内容に応じて、活動内容や場所を選べる機会を設定する。
３－６	振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	①「今日分かったこと」「なぜ？と思ったこと」「これから生かしたいこと」などの振り返りの視点を設定し、その中から選択して振り返りを行い、互いに交流する時間を設定する。 ②学んだことの交流会などを設定し、互いに感想を伝え合う活動を設定する。 ③自らの選択について、その成果や課題について、振り返り、互いに交流する場を設定する。

【「自己選択・決定の場の設定」のねらいや具体的活動及び留意点】

袋小学校では、「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けた授業の共通実践を行ってきました。

その視点の１つに、「自己選択・決定の場の設定」があります。授業の中で、「学習課題や計画の選択」「学習方法の選択」「表現方法の選択」「学習形態や場の選択」等、児童の選択を大切にする取組を行いました。

この取組は、児童にとって主体性を発揮しやすい状況を生み出し、自分で考え、自分で取り組む姿につながっています。

参考指標１　【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

主体的に学習に取り組み、自分の考えや思いを表現する取組
～錦町立木上小学校～

○授業における対話的な活動「話しタイム」の設定
○各教科の用語や説明用語による、自分の考えや思いを表現する取組

【「話しタイム」の様子】

展開場面を中心に、自分の考えや思いを伝え合う対話的な活動「話しタイム」を取り入れています。

ペアやグループで対話を行う際には、各教科の専門用語や説明用語を提示し、既習事項を活用して行うようにしています。

例えば、算数科の授業では、「不等号・数直線・ぼうグラフ」等の用語、「もしも・例えば・なぜなら」等の説明用語を使っています。

これらの活動により、児童は、互いの考えを比較し、共通点や相違点に着目しながら考えを深めることができています。

参考指標１ 【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び」アクション・プロジェクト（柱①）

個別最適化された授業への取組
～ 天草市立河浦小学校～

○課題の解決に向けて視点を絞り、どの視点から学習を進めていくか、学習内容を自己決定する取組
○学習方法（学習形態や学習道具）を自己決定する取組

【第６学年国語「やまなし」の授業の様子】
（左）学習方法を自己決定し、取り組む様子
（右）自分の考えを全体に説明する様子

全体の課題を解決するために、解決の視点を児童と考え、どの視点をもとに学習を進めていくかを自己決定させます。

その後、課題の解決に向けて、それぞれの児童にとってよりよい学習形態（個人・ペア・グループ）や学習道具（ノート・タブレット）を自己決定させることで、主体的に学び続ける児童の育成を図っています。

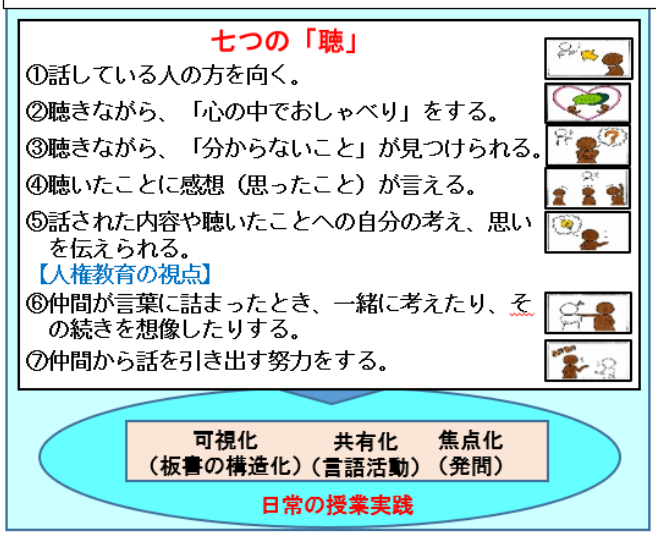
取組を始めて半年程で、それぞれの児童に合った学習方法を自分で選択することができるようになりました。また、協働で解決する場面でも黒板の前に出て自分の考えを説明するような主体的な場面が見られるようになり、自分たちで学習を進めることもできるようになっています。

参考指標１ 【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

授業づくりの３つの視点と「聴く」を中心とした授業への取組
～ 上天草市立今津小学校～

○学校総体で取り組む「七つの『聴』」を中心とした学び
○授業づくりの３つの視点（可視化、共有化、焦点化）による授業力向上



【「七つの『聴』」の取組】

児童の聴く時の方法や心構えをまとめた「七つの聴（キー）」を作成し、全学年、全ての場面で、「聴く」ことを大切にした取組を行っています。この取組を授業を中心に実践することで、「友達の言葉を大切にしながら聴きたい」や「自分の言葉を丁寧に伝えたい」など、児童は安心と信頼にあふれた学級の中で、授業に参加できています。

また、授業づくりの視点を３つ（可視化、共有化、焦点化）に揃えて研究を進めています。このことにより、教師同士の学びが深まるとともに、児童自らが課題解決に向けて、主体的に学び合っています。

参考指標２ 【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

学校独自の「石段ノート」を活用した自ら取り組む家庭学習に向けた取組
～美里町立中央中学校～

○帰りの会の時間を利用した「石段ノート」への家庭学習計画の記入
○「石段・石橋運動」の取組状況の可視化と学校全体（教師と生徒等）での共有

【「きらりさん（参考になるノート）」（左）
「石橋・石段運動」結果（右）を学年毎に掲示】

学校独自の「石段ノート」に、帰りの会で、その日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てる取組を進めています。翌日、提出されたノートの内容や取組状況を、学年部の職員で見取り、適宜アドバイスをしています。また、学習の仕方やまとめ方で参考になるノートを「きらりさん」として掲示をして、一人一人の家庭学習の質の向上につなげています。

「石段・石橋運動」では月一回、一週間分の家庭での学習時間とメディアの時間を学年ごとに集計し、結果を掲示する等、学習時間及びメディアに触れる時間を意識させる取組を行っています。

参考指標２ 【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び」アクション・プロジェクト　柱１

「単元のゴールの姿」に向け、ペア学習や家庭学習等を活用し、学習意欲を高めていく取組
～ 長洲町立長洲中学校～

○「人権が尊重される授業づくりの視点」を用いた授業づくり
○スピーキングテストに向けた家庭学習の取組

【授業の様子】
簡単な語句や文を用いてペア学習を行っています。

第１学年の英語では、単元の終末に、既習内容を用いて、自分の最近の出来事をＡＬＴに話すというスピーキングテストによる発表の場を設定しています。

そのため、授業では「人権が尊重される授業づくりの視点例（人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】）」の中から「自己存在感を持たせる」支援として、自信がないときには、ペアで確認し、安心して会話ができる雰囲気づくりを目指しました。

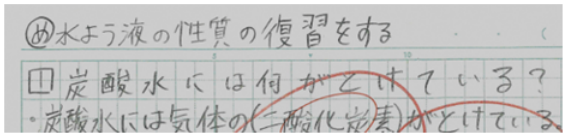
また、家庭学習で、ＡＬＴに伝えたい出来事を整理し、授業中に完成した作文を友達と読み合う活動を取り入れました。

参考指標２　【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

家庭学習の習慣化に向けた取組
～山鹿市立菊鹿小学校～

○家庭学習の計画や自主学習のめあてを作成する時間の設定
○各学期１回の「自学コンクール」の掲示



【一番上に「めあて」が書かれた自学ノート

【自学コンクールで掲示された児童のノート】

週に２回、帰りの会の後に設定している１０分間の「学習マネジメントタイム」において、児童がその日の家庭学習の計画を作成しています。具体的には、児童がその日の学校での学習を振り返り、家庭学習の計画やめあてをノートに書くなど、自分で計画を立てることを行っています。

この取組を継続することで、児童は家庭学習にスムーズに取り組むようになり、自分の課題に合った学習ができるようになっています。

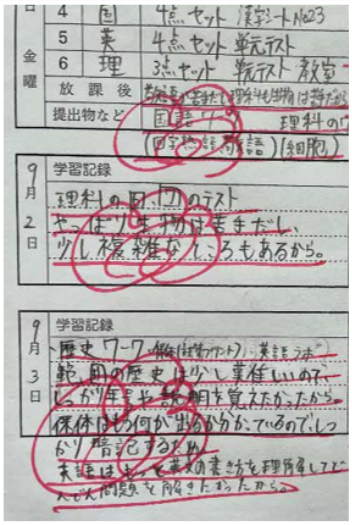
また、各学期１回の「自学コンクール」を行い、効果的なノートやよくまとめられたノートを掲示して、児童がお互いに学び合ったり、認め合ったりしています。

参考指標２　【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

一日の学習を振り返り、自分で計画を立て家庭学習を進める取組
～山鹿市立山鹿中学校～

○帰りの会での家庭学習を計画する時間の設定とペアや班での交流



【家庭学習の計画を話し合う生徒と学習の記録等】

生徒が自ら考え、仲間と関わりながら学びを深める授業づくりに取り組む上で、生徒自身が一日の学習を振り返り、家庭学習の計画を立てて取り組むことが課題と捉えました。そこで、家庭学習の計画の立て方について、職員で共通理解を図りました。

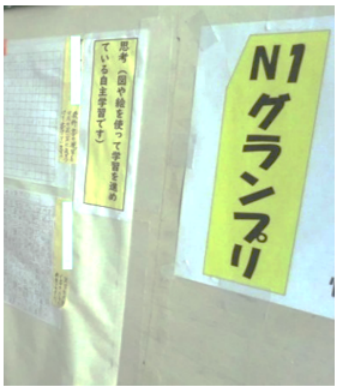
帰りの会で一日の学習を振り返り、自分で家庭学習内容を計画し、ペアや班で交流する時間を設けています。生徒同士が交流し、多様な考えに触れることを通して意欲が喚起され、家庭学習の充実につながっています。

参考指標２　【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

家庭学習の取組を「わかった・できた」につなげ子供が学び方を学ぶための手立て
～ 菊池市立泗水東小学校～

○「家庭学習がんばり週間」における家庭との連携と「漢字・計算大会」の開催
○　子供が学び方を学ぶ、「自学ノートコンテスト『Ｎ－１グランプリ』」の開催



【N1グランプリの掲示】
自主学習ノートのコピーと説明が掲示されています。

【家庭学習がんばりシート】
二次元コード付で、目標を記入します。

「家庭学習がんばり週間」を設定し、児童が家庭学習の目標や内容、時間等を設定する活動に取り組みました。保護者も一緒に取組内容を設定しやすいように、二次元コード付の「家庭学習がんばりシート」を作成し、配付しました。

「家庭学習がんばり週間」の直後には「漢字・計算大会」を実施し、基礎・基本となる問題を出題しました。家庭学習での取組が大会の結果にも反映されやすくすることで、児童は取組の充実感を得ることができました。

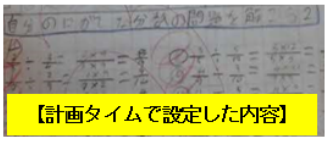
「家庭学習がんばり週間」中の自主学習ノートは「Ｎ１グランプリ」として審査し、掲示しました。優れた実践から、児童同士の学び会いにつながっています。

参考指標２　【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

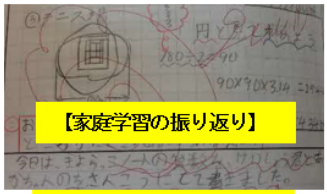
関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

学校と家庭をつなぎ、自ら計画を立てて勉強する取組
～ 南小国町立市原小学校～

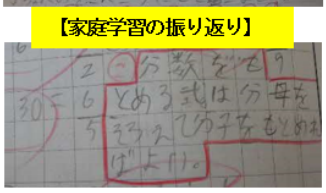
○学校で立てた計画を家庭で確認して取り組む「きよらっこノート」による自主的な学習
○「きよらっこノート」（自主学習）の計画を立てる時間の設定



【計画タイムで設定した内容】



【家庭学習の振り返り】



【家庭学習の振り返り】

【計画タイムの様子】

【きよらっこノート小中の交流】

【「きよらっこノート」による学習】

家庭での「きよらっこノート」の自主的な取組のために、帰りの会の時間に「計画タイム」を設定し、家庭学習の内容を決めています。

帰宅すると児童は、この計画を確認して学習に取りかかります。内容は、各教科の基礎・基本的なものだけではなく、日記、継続した観察の記録等、自分の夢の実現につながる幅広い課題に取り組んでいます。

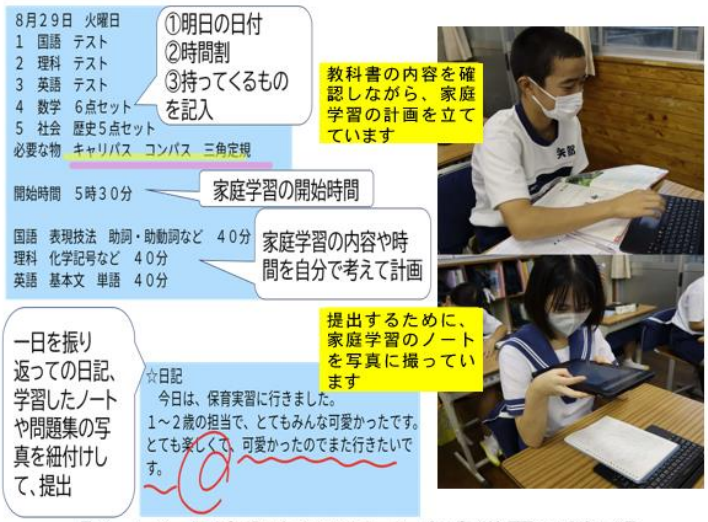
南小国町４校の小中学校では、毎月、優れた「きよらっこノート」の交流を行い、各学校で掲示することで、児童生徒の意欲が高まっています。

参考指標２ 【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

生徒の主体性を高めるためのプランニングタイムの見直しと１人１台端末の活用
～ 山都町立矢部中学校～

〇１人１台端末の活用を図った家庭学習計画を立てる取組
〇学習計画を立てる段階から、「計画に基づく取組」を確認する教師の支援



【１人１台端末を活用した家庭学習の様子】

矢部中学校では、昨年度まで帰りの会で、その日の家庭学習計画を立てる取組を行ってきました。そのため、家庭学習の計画を立てる意識は高い状態を維持しています。

今年度は、生徒の家庭学習への主体性を高めるため１人１台端末を活用して、家庭学習の計画を自宅等で立てるようにしました。

その際、生徒は、端末上のシートに計画表を作成し、学習したことや日記をそのシートに紐付けして提出します。翌日、朝自習の時間に、「計画に基づく取組」を教師が一人ずつ確認し、生徒と意見を交換する時間を設けています。

参考指標２ 【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

家庭学習習慣の定着を図るための帰りの会（轍（わだち）タイム）の取組
～ 八代市立第三中学校～

〇帰りの会において、生活ノートに家庭学習の計画を立てる取組

【轍タイムの様子と轍ノートの一部】

帰りの会終了後、１０分間の轍タイムを設けています。轍タイムでは、生活ノート（轍ノート）に、家庭学習の計画（学習内容と時間）を立て、残った時間で学習に取り組んでいます。全校で同じ時間帯に、静かな環境をつくり、落ち着いた雰囲気の中で活動に取り組んでいます。

家庭では、轍タイムで立てた家庭学習の計画に沿って学習を行っています。轍タイムの活動をそのまま家庭学習につなげることで、家庭学習の習慣が身に付いてきました。生徒は家庭学習の取組状況を自分自身でチェックし、全職員で連携して見取りを行っています。

参考指標２　【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

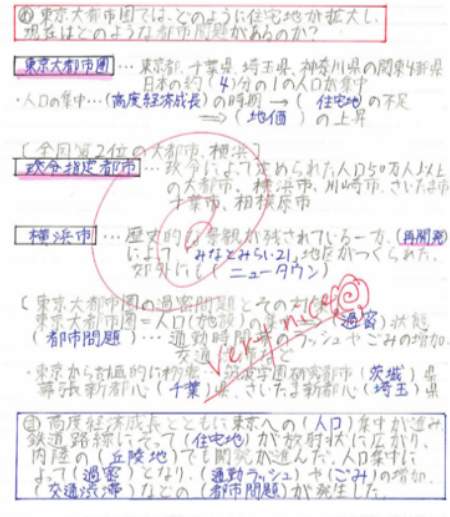
事前の計画と「めあて」と「まとめ」を用いることで、生徒の主体的な家庭学習につなげる取組

～芦北町立佐敷中学校～

○その日の家庭学習計画を生活ノートに記入する時間の設定
○自主学習ノートに「めあて」「まとめ」を記入する取組の共通実践

【計画記入の様子】

【生徒の家庭学習計画】



【生徒の自主学習ノート】

本校では、帰りの会が始まる前の５分間を、生徒がその日の家庭学習計画を生活ノートに記入する時間として設定しています。

家庭で行う自主学習ノートについては、「めあて」を立てて学習に取り組み、最後に「まとめ」を記入して学習を振り返ることにしています。

この取組の共通実践により、家庭学習に対する生徒の意欲や主体性が高まり、家庭学習の量・質の向上につながっています。

参考指標２　【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

生徒が見通しをもって学習計画を立て、意欲的・継続的に学習する取組

～多良木町立多良木中学校～

○学習委員会が教師と連携・情報共有し、今後のテスト計画を周知
○学習委員からの情報を基に、生徒が各自の家庭学習計画を作成

【学習委員による説明の様子】

生徒が自ら学習に取り組む習慣の確立を目指し、生徒会の学習委員会と教師が連携し、家庭学習の充実に取り組んでいます。

学習委員会は、各教科の教師から直近２週間分の各教科の単元テスト等の予定を聞き取り、週に１回の朝学活の時間に生徒に周知します。生徒は、その情報を基に、班ごとに相談しながら学習計画を立てていきます。

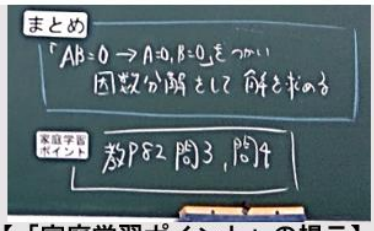
また、毎日の帰りの会において、各自が当日の家庭学習の予定を立て、帰宅後の家庭学習につなげています。

参考指標２ 【家で自分で計画を立てて勉強をしている】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第５章

生徒が自らの学びの姿を知り、学習習慣を形成するための取組
～ 天草市立牛深東中学校～

○授業と家庭学習をつなげるための「家庭学習ポイント」を示す取組
○生徒会活動による家庭学習時間調査と「自学ノート東輪（とうわ）マッチ」の取組



【「家庭学習ポイント」の提示】

【学習図書委員会の啓発活動】

【「自学ノート東輪マッチ」の様子】

授業と家庭学習のつながりをつくるために、「家庭学習ポイント」を授業の中で示しています。この内容と関連させた自学の取り組み方について、全校集会等で生徒と共有し、家庭学習の充実を図っています。

また、生徒会学習図書委員会では、家庭学習時間の調査を行い、家庭学習への取組について啓発活動を行っています。

さらに、縦割り班の組織である東輪（とうわ）会を利用して「自学ノート東輪マッチ」を行い、家庭学習の取組について意識の向上を目指しています。

これらの取組を通じて、家庭学習に計画的に取り組む生徒の割合が、８割を超えました。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

生徒が分かる喜びを感じ、学びに向かう力を向上させる取組
～南関町立南関中学校～

○授業冒頭での、基礎・基本を定着させる計算問題の継続的な実施
○授業中盤での、「学び合い」の時間・場の確保による学習内容理解の促進

【授業中盤での「学び合い」の様子】
隣同士などと限定せず、必要とするところへ移動し、「学び合い」を行っています。

授業開始時に、５問程度の既習事項の計算問題を実施しています。同様の問題を継続して行うことで、計算が苦手な生徒には分かる喜びにつなげ、得意な生徒には正確に速く解くことへの意識や、数学への更なる学習意欲の向上を図っています。

また、授業中盤に「学び合い」の時間を設定し、隣同士や班と限定せず、誰とでも「学び合い」ができるようにし、学習への意欲を高め、学習内容の確実な理解と学習意欲の向上を図っています。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

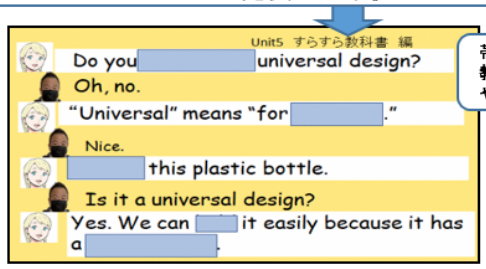
関連項目「熊本の学び推進プラン」第４章

バックワードデザインによる効果的な英語力の定着に向けた活動
～合志市立西合志南中学校～

○単元終了時の生徒の姿を見据えた授業づくり
○単元末活動を見据えた帯活動の充実

単元終了時の生徒の姿
ALTや友だちに住みやすい街No1合志を紹介するために、合志市のUDについて考えたことや興味があるもの・ことについて紹介し、単元の題材で学んだことを踏まえて、身近な暮らしについて事実や考えたことを発表している生徒

パフォーマンステスト（単元を通した学習課題）
ALTに、住みやすい街No1合志市についてよく知ってもらうために、合志市のUDについて考えたことや興味があるもの・ことについて発表しよう。



帯活動として「すらすら教科書」を使ってペアでやり取りをする様子

【（帯活動例）単元で学ぶ内容を１つにまとめた自作会話集「すらすら教科書」】

本校の英語科では、単元終了時の生徒の姿を見据え、単元の最後に設定する活動（本単元ではパフォーマンステストとして実施）に向けて、単元終了時から逆向きに単元デザインを行う、バックワードデザインによる授業構想を行っています。

その中で、各授業の内容につながりをもたせるために、帯活動として時間を確保し、単元を通して言語活動を継続的に行っています。具体的には、単元の重要単語を定着させる活動「90秒チャレンジ」や、キーセンテンスを素材とした自作会話集「すらすら教科書」を活用したり、Small Talkを積極的に取り入れたりしています。

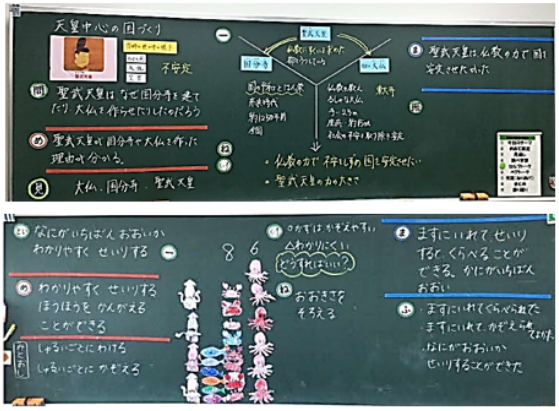
言語活動の中で生徒が伝えたいと思う英語表現や、生じる誤りについては中間指導を行いながら、生徒の課題克服につなげています。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

授業の振り返りの充実を図る視点提示と構造的な板書の工夫
～ 益城町立飯野小学校～

○振り返りの充実を図る、振り返りの視点「わがやはすてき」の取組
○学びの過程を振り返ることができる構造的な板書の工夫



【板書の様子】
学習過程を板書に分かりやすくデザインし、振り返りの充実につなげている。

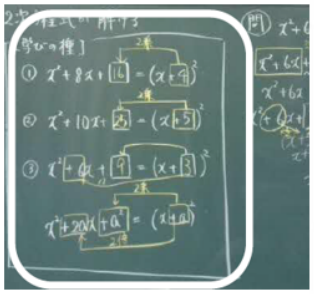
【振り返りの視点】
　次のような振り返りの視点を示して、振り返りが学習の感想だけに終わらないよう、充実を図っています。
「わ」＝ わかったこと
「が」＝ がんばったこと
「や」＝ やってみたいこと
「は」＝ はじめて知ったこと
「す」＝ すごいなと思ったこと
「て」＝ できるようになったこと
「き」＝ きづいたこと
【構造的な板書の工夫】
　構造的な板書の工夫に取り組むことで、子供自身が自分の学びの過程を振り返り、何を、どのように学んだのかを明確に捉えられるようにしています。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第3章

「学びの種」の活用と「わっ（協働学習）」の充実
～ 山都町立清和小学校・清和中学校～

○「学びの種（既習事項や課題を解決するために必要な知識・技能）」による導入の工夫
○考えるための技法を活用し、目的を明確にした「わっ（協働学習）」の充実



【導入時の「学びの種」】

授業の型　「せいわっこ」

	キャッチフレーズ	内容
せ	めざせ！今日のゴール！	めあての提示
い	いちばん初めは自分で考えよう	個人思考
わっ	わかったことやわからなかったことを共有し、考えを深め合おう	協働学習
こ	こんなことが分かった！できた！をまとめよう	まとめ ふりかえり

【授業の型「せいわっこ」】

　既習事項や課題を解決するために必要な知識・技能を「学びの種」と名付けました。授業の導入で確認することで、課題を解決する際に自分の考えを持ち、個人思考の充実や協働学習の深まりにつながりました。
　清和中学校区では、小中合同で授業の型をそろえた【せ・い・わっ・こ・学習】を構築し、全教科で取り組んでいます。「わっ（協働学習）」では、考えるための技法を活用し、「比較する」「分類する」「多面的に見る」など、話合いの目的をはっきりさせ、課題解決に取り組むことで児童生徒の主体的な学びを促しました。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び」アクション・プロジェクト」柱①

「分かった」「できた」へとつなげる学習支援の取組
～ 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校～

○個に応じた指導や支援を行うサポートウィークの実施
○課題克服や家庭学習のための学習会の計画と運営

【写真左「放課後の学習会」の様子】
授業の中で分からなかった内容を担当の教師に質問したり、宿題を進めたりしています。
【写真右「長期休業中の学習会」の様子】
２年生が１年生に教える姿が見られています。

サポートウィークとは、授業が空いている教師が、自分の担当教科以外の授業にサポートで入る取組です。個に応じた指導や支援を行うことで、授業内容が「分かった」「できた」と実感する生徒が増えています。

平日の放課後には、授業の内容や課題を再度学習したい生徒や宿題を進めたい生徒に対して学習会を行っています。担当の教師に質問したり、宿題を進めたりする様子が見られます。

また、長期休業中には図書室を開放し、宿題や自主学習をする場の提供を行うことで、参加している生徒同士で教え合う姿も見られています。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第３章

「自己と向き合う時間」「他者と向き合う時間」の確保による授業改善の取組
～芦北町立佐敷小学校～

○児童の主体的な学びを引き出すための「自己と向き合う時間」の設定
○児童の「分かった」「できた」につなげる「他者と向き合う時間」の充実

【「自己と向き合う時間」による確認や振り返り】

【「他者と向き合う時間」による学び合い】

本校では、授業の中に「自己と向き合う時間」「他者と向き合う時間」を取り入れ、児童の「分かった」「できた」につなげる授業改善の取組を行っています。

「自己と向き合う時間」とは、導入場面における、本単元や本時の学習に必要な既習内容を児童が自ら確認したり振り返ったりする時間です。「他者と向き合う時間」とは、子供同士が考えや思いを伝え合い、学びを深めたり、広げたりする時間です。

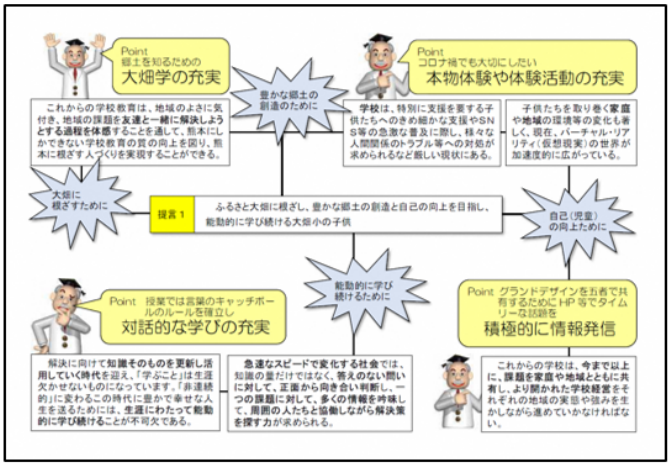
自己と向き合う、他者と向き合う時間における児童の学びが充実するよう支援を行ってきたことで、「授業の内容はよく分かる」児童の割合が着実に高まってきています。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第２章

「大畑小版『熊本の学び』推進プラン」による授業改善の取組
～人吉市立大畑小学校～

○「熊本の学び」推進プランの提言と基本方針の学校化
○４つの共通実践事項を設定し、授業改善を推進



【大畑小版「熊本の学び」推進プランの一部】

「熊本の学び」の推進に当たって、児童の実態や課題を基に、大畑小版「熊本の学び」推進プランを作成し、授業改善に取り組んでいます。

大畑小版推進プランについては、校内研修等で共通理解を図り、定期的に各自の実践を振り返りながら活用を進めています。

また、大畑小版推進プランの具現化のために、「子どもと教師の出番は７：３」「全員参加の対話活動」「対話を活かした書く活動」「成長を実感させる調査活動」の４つの共通実践事項を定め、児童の表現力や発言力の高まりを目指しています。

参考指標３ 【授業の内容はよく分かる】実践例

関連項目「熊本の学び推進プラン」第４章

すべての児童に「分かった」「できた」を実感させるペア・グループ学習の設定
～ 苓北町立坂瀬川小学校～

○学力向上検証改善サイクルに基づいた校内研究テーマの設定
○授業導入時からのペアやグループで学び合う場の設定

【第２学年 国語科「こんなもの、見つけたよ」】
自分たちで見付けたものを詳しく書くために、書く事柄の検討をペアで行っています。

学校教育目標の達成に向けた学力向上検証改善サイクルに基づき、自ら学び共に学ぶ力の育成に向けた授業づくりを行っています。

導入時からペアやグループで学び合う学習を設定することで、全ての児童が学習に参加し、課題解決が一人学びのときよりも進んでいます。学び合いを通して、「分かった」「できた」を実感している児童の姿が見られます。

また、学習活動の中身により、考える方法を児童が選択することで、主体的な学習態度の育成にもつながっています。

第２章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

図書館教育の充実
～山鹿市立山鹿小学校～

○学校図書館司書・図書委員会を中心とした、読書冊数を増やす活動の実施
○学校図書館司書と連携した授業づくり

【完成した読書パズル】
教室に掲示しています

【学校図書館司書と連携して作成したシート】

児童が本に親しみ、たくさんの本に触れる機会を増やしていけるよう、次のような取組を行い、図書館教育の充実を図っています。

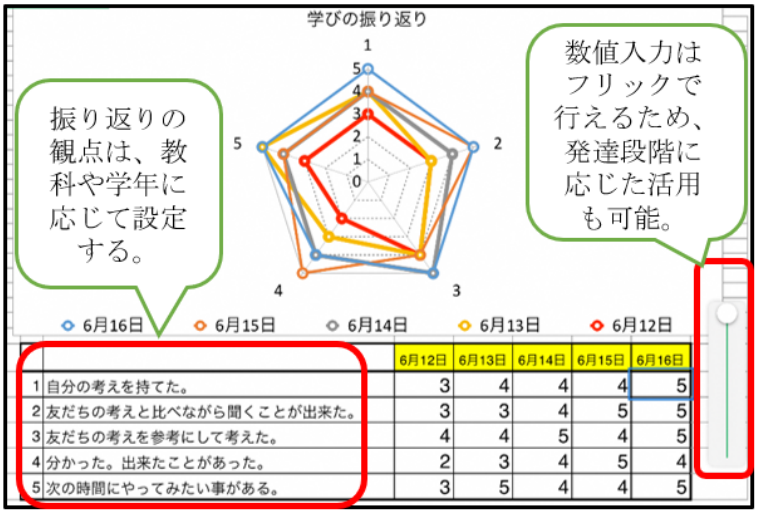
本を借りた児童にピースを渡し、皆でパズルを完成させる「読書パズル」の取組を行っています。更に各学級へのおすすめ本を学校図書館司書と図書委員会が選定し、パズルが完成した学級に貸し出しています。

また、第５学年国語科「新聞を読もう」の単元では、学校図書館司書と連携して授業を実施しました。学校図書館で購読している新聞の中から、５年生が内容を理解し、自分なりの意見をもつことができる記事を取り上げることで、学習の深まりや広がりがみられました。

第２章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

自分の成長を実感できる振り返りの取組
～山鹿市立鹿北小学校～

○児童が、自らの学びを振り返るための学習支援ソフトの活用



		6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日
1	自分の考えを持てた。	3	4	4	4	5
2	友だちの考えと比べながら聞くことが出来た。	3	3	4	5	5
3	友だちの考えを参考にして考えた。	4	4	5	4	5
4	分かった。出来たことがあった。	2	3	4	5	4
5	次の時間にやってみたい事がある。	3	5	4	4	5

【学習支援ソフトを活用した振り返りシート】

児童が、授業の終末場面で学習（単元）を振り返る観点に沿って達成度や意欲等をフリック入力し、自分の学びを振り返ります。

全教科で自分の学びを振り返ることができるとともに、教科間を通して、自分の学びを可視化することもできます。

この学びの記録が蓄積され、可視化されることで、単元を通して自分の成長を実感することができます。

全学調の問題分析と授業改善をつなげる取組
～ 氷川町立竜北中学校～

○全職員で全国学力・学習状況調査の問題を分析し、授業改善の方向性を確認

【全学調の問題を分析する職員の様子】

全職員を３つのグループに分け、グループごとに全学調の問題（国語、数学、英語）を解きます。各グループが問題を分析し、各教科の授業改善にどのようにつなげるのか考え、共通理解を図りました。

【国語の問題分析からの授業改善例】
- 教材文の分からない言葉に関して「調べる活動」や「短文を作る活動」などを行い、語彙力を高める。
- 文章を書くときや発表するときは考えの「根拠」を意識する。
- 説明文教材を学習するときには文章の要約を行う。

第２章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

健康教育を核としたカリキュラム・マネジメントの推進
～相良村立相良南小学校～

○健康教育カリキュラムに基づいた実践（「こころ・あたま・からだの健康」）
○児童の「なりたい自分」の実現を支える学びの土台づくり

【健康教育の掲示物】
３つの健康の視点から、活用の様子等を大きな木に見立てて掲示をしています。

自ら考え、なりたい自分に向かってチャレンジする児童の育成を目指して、健康教育を核としたカリキュラムを作成し、実践を行っています。
相良南小学校では、「こころ」「あたま」「からだ」という「３つの健康」を示し、なりたい自分に近づけるためにそれぞれの健康を目指すという取組を進めています。
例えば、「あたま」では、自分で考える力の育成を目指して、学びの土台づくりを進めています。学びの土台づくりに向け、各種調査やアンケート結果により児童の実態を把握し、授業中における児童の意見交換、家庭学習ノートコンクール等を実施しています。
活動の様子やお知らせは、廊下に設置した健康教育掲示板で周知し、児童が「３つの健康」を日常的に意識できるようにしています。

第２章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

校内研修の充実
～天草市立天草中学校～

○一人一人の教師が、生徒の「学びのロールモデル」となることを意識した研修

【校内研修の様子】
教科も経験年数も関係なく、積極的に意見交流を行いながら、課題解決に取り組んでいます。

「小規模校としての『強み』を生かす～『全員主役・全員本気・全員成長』の教育～」の理念のもと、各教科担当が１名ずつである小規模校の強みを生かしながら「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。

日々の研修では、研究主任を中心に、教師が生徒の「学びのロールモデル」となることを合言葉に、全職員で取り組んでいます。

教師が生徒のロールモデルとなることで、課題の解決や更なるレベルアップを目指しています。生徒の側から教師自身の授業づくりを見つめ直し、授業改善につながるよう、積極的に意見を交流しながら研修を行っています。

第２章 【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

ひまわり園プロジェクト
～宇城市立豊野小・中学校～

○五者が連携・協働し、児童・生徒が主体的に参画する取組

【ひまわり園 開園（小中学生で一般のお客様をおもてなし）】

校区にある「うきうき豊野ひまわり園」を活用して、地域活性化の一環として豊野小・中学校で取り組んでいるひまわり園プロジェクト。

目指す児童生徒像「ふるさとを大切にする子供」及び地域の願い「熊本地震からの復興を目指し地元を盛り上げていきたい」を、教職員・保護者・地域学校協働活動推進員・地域住民等で共有し、本プロジェクトに取り組んでおり、今年で３年目を迎えました。

また、中学生も企画会議に参加し、一つ一つのアイデアを関わる大人と一緒に具現化するなど、児童・生徒の主体性を大切にする取組へと発展しています。

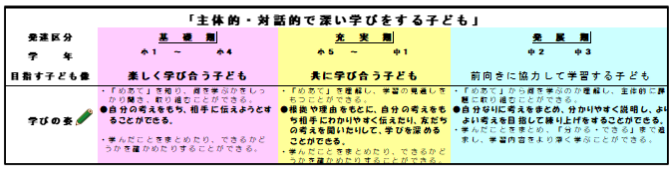
地域学校協働活動推進員が、五者をつなぐ重要な役割を果たし、プロジェクトの成功に大きく貢献しています。

第２章 【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

３校２園連絡会による学びと育ちを支える連携
～宇土市立緑川小学校（宇土市立住吉中学校区）～

○３校（住吉中・緑川小・網津小）２園（緑川保育園・網津保育園）合同での連絡会の開催
○１５年間の学びと育ちを支える連携の在り方についての協議

【授業研究会での協議の様子】



「主体的・対話的で深い学びをする子ども」

発達区分 学　年 目指す子ども像	基礎期 小１ ～ 小４ 楽しく学び合う子ども	充実期 小５ ～ 中１ 共に学び合う子ども	発展期 中２ 中３ 前向きに協力して学習する子ども
学びの姿	・「めあて」を知り、課題を解決がきしっかり練習、取り組むことができる。 ●自分の考えをもち、相手に伝えようとすることができる。 ・学んだことを書きとめたり、できるかどうかを確かめたりすることができる。	・「めあて」を理解し、学習の見通しをたつことができる。 ●根拠や理由をもとに、自分の考えをもち相手にわかりやすく伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、学びを深めることができる。 ・学んだことを書きとめたり、できるかどうかを確かめたりすることができる。	・「めあて」から課題を解決のが理解し、主体的に課題に取り組むことができる。 ●自分なりに考えを学とめ、分かりやすく説明し、よりよい考えを目指して練り上げをすることができる。 ・学んだことを書きとめ、「分かる・できる」まで過ぎし、学習内容をより深く学ぶことができる。

【「学びのものさし」の一部】

住吉中学校区では、毎年４回、３校２園連絡会を開催しており、本年度は緑川小学校が中心となって活動しています。
【第１回】本年度の取組に関する共通理解、授業参観
【第２回】公開授業に向けた事前研究会
【第３回】公開授業参観、事後研究会
【第４回】本年度の振り返り、次年度の取組についての協議と授業参観
公開授業においては、小学校・中学校の先生方が中心となり、事前・事後研究会を行い、授業の在り方や身に付けさせたい力について協議しています。
また、中学校区で作成している「学びのものさし」「育ちのものさし」には、１５年間の学びと育ちを支える上で共通理解したいことが記されており、保護者にも配付しています。

第２章 【目指す子供の姿を五者で 共有 】 実践例

当事者意識を持った五者が「社会に開かれた教育課程」を実現させる組織体制
～荒尾市立万田小学校～

○単元配列表の活用（総合の時間を軸に各教科や地域学校協働活動をつなぐカリキュラム・マネジメント）
○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組

【単元配列表の一部】

学校教育目標及び身に付けてほしい資質・能力の達成のために、総合的な学習の時間（低学年は生活科）を軸として、各教科及び地域学校協働活動をつなぐカリキュラム・マネジメントを見える化させた単元配列表を作成・活用しています。
また、学校運営協議会各委員が当事者意識を持ち、教育目標を学校と共有するとともに、児童会の提案や学校評価の結果を基にした課題解決に向けた熟議を行うことで、子供が育つ取組を提案・実施していく「社会に開かれた教育課程」を実現させています。

第２章 【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

学校運営協議会・地域と学校が連携した地域交流会実施の取組
～ 南阿蘇村立白水小学校～

〇統合後の学校の課題を解決するため、児童会が中心となり学校運営協議会へ提案
〇積極的な児童会活動と地域住民との交流の推進

【シュロの葉を使った七夕飾り作成の様子】

学校が統合して３年目。校区が広がり、地域と学校との交流が減ってきたという現状を解決するため、児童会から「地域の方々と交流する機会を作りたい」という提案が学校運営協議会に出されました。この課題の解決に向け地域と交流をすることで、学校のことを知ってもらい、自分の故郷に誇りをもつことをねらいとし、学校運営協議会・各区長代表と児童会による交流会の内容の打合せを行い、地域交流会を実施しました。

今後はこの取組が白水小の伝統になるように交流会の内容について更に地域の方々との話し合いを重ねていきます。

第２章 【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

「目指す生徒像」を地域や保護者と確立し、共有する取組
～阿蘇市立一の宮中学校～

〇学校の課題、強みを地域や保護者で共有した「目指す生徒像」の確立
〇生徒自身が取組を検討する主体的な学校づくり

■目指す生徒像■
「夢、目標に向かって挑戦する生徒」
「協力し合い、より良くしようと行動する生徒」
「オリジナリティに溢れ、未来を切り開く生徒」
「多様な他者を尊重し、公平に受け入れられる生徒」
「多角的な視点で、臨機応変に対応できる生徒」

【熟議している様子】

「よりよい一の宮中学校」を目指して、生徒、職員、保護者、地域で熟議しながら「学校教育目標」の共有と「目指す生徒像」を確立していきます。熟議する際は、大学の先生をコーディネーターとして招き、学校の課題や強みを「目指す生徒像」にどのように反映させるのかという視点を示していただきました。熟議し共有した「学校教育目標」は、学校長が全校集会で示しました。

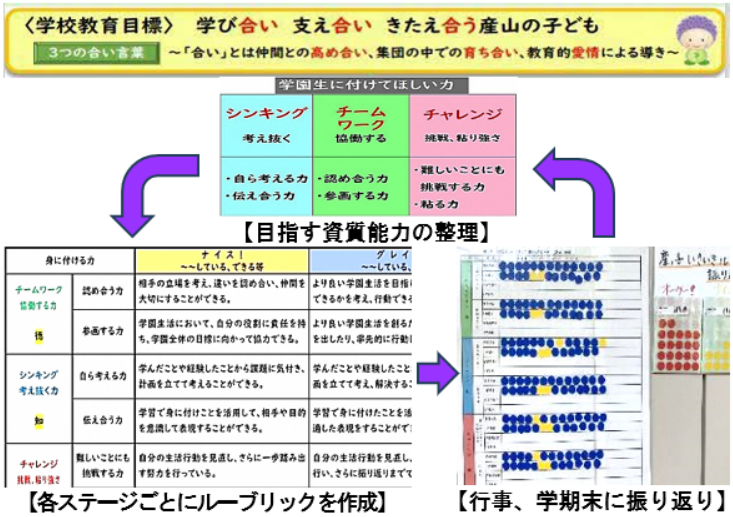
また、目指す生徒像は、生徒会執行部が全校集会で示し、一の宮中学校の生徒として取り組むべき方向を共有するとともに、現在もその具現化に努めています。

生徒は、学校の具体的な課題や強みをあらゆる視点から見つめ直し、今後の取組の方向を検討したことで、主体的な学校づくりへの意欲が高まりました。

第２章　【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

○９年間の学びの系統を踏まえ、子供たちが身に付ける資質・能力を明確にする取組
～ 産山村立産山学園～

○全職員で、学校教育目標を「育成する資質・能力」として具現化するルーブリックの作成
○ＰＴＡや学校運営協議会等を通して五者で共有



学校教育目標の実現に向けて、児童生徒に身に付けてほしい力（育成する資質・能力）を「シンキング」「チームワーク」「チャレンジ」に整理し、義務教育の９年間を発達段階に応じて分けた各ステージ（1st・2nd・3rd）ごとに、児童生徒が主体的に取り組めるよう、ルーブリックを作成しています。また、ＰＴＡや学校運営協議会とも共有して教育活動の推進につなげています。

このルーブリックを活用し行事や学期末の振り返りと関連付けて、達成状況を視覚的に確認できるようにすることで、自己や学級の変容と成長を実感できるようにしています。

第２章　【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

五者連携によるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進
～ 益城町立益城中学校 ～

○学校運営協議会による「連携」をキーワードとしたコミュニティ・スクールの推進
○地域学校協働本部を核とした生徒による地域への貢献（ボランティア活動）

【学校運営協議会】
年間を通じ、生徒代表が参加する協議会を実施しています。

【ボランティア活動】
「子供民生委員」として、地域の独居老人宅を訪問しています。

年間５回計画されている学校運営協議会において、生徒を中心に、学校、家庭、地域、行政の五者が、「連携」をキーワードとした取組について協議し実践しています。

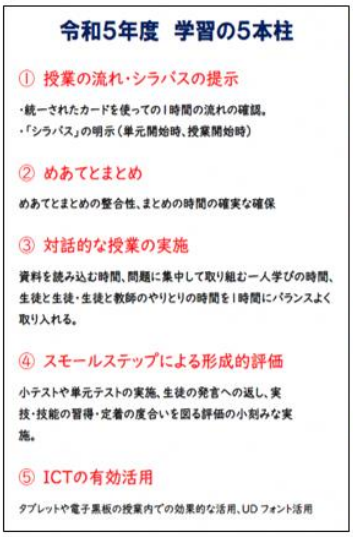
生徒の主体的な取組を目指し、定期的に運営協議会委員との協議会を開き、校区内３小学校での合同あいさつ運動や町内の隣接中学校と合同で行う地域活動等を実施しています。

この取組の一つとして、「子供民生委員」のボランティア活動を行っています。

第２章　【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

「学習の５本柱」を設定し、振り返りながら具体的な個人の実践目標を決めていく取組
～山鹿市立米野岳中学校～

○「学習の５本柱」を意識した授業づくり



【学習の５本柱】

【柱③　対話的な授業の様子】

【柱⑤　ICTを活用した授業の様子】

学校全体の学力向上を目指し、年度初めの校内研修で「学習の５本柱」を作成し、共通理解しました。

学期の初めに、職員がそれぞれ「学習の５本柱」の中でも「何を中心に授業実践していきたいか」という目標を立て、それぞれの授業で実践し、それに対する振り返りを学期ごとに行うようにしています。

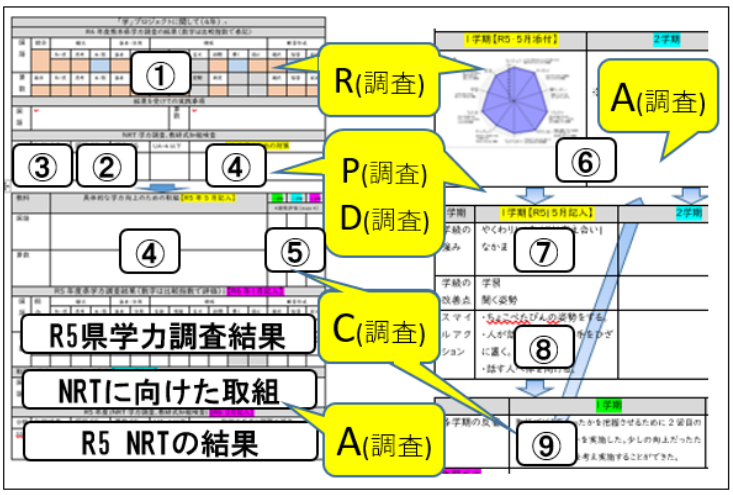
研究授業や授業研究会においても、「学習の５本柱」の内容を中心とした学習構想案を作成し、振り返りを行いながら、授業力の向上を目指しています。

また、「自分の教科に取り入れられるものはないか」という視点を持って他教科の研究授業を参観しています。

第２章　【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

R-PDCAサイクルと学級経営案の一体化
～ 天草市立御所浦小学校～

○県学力・学習状況調査やNRT、知能検査の分析を学力向上に生かす取組
○学級力アンケートをもとにした豊かな心の育成



【R-PDCAサイクルと学級経営案が一体化したシート】

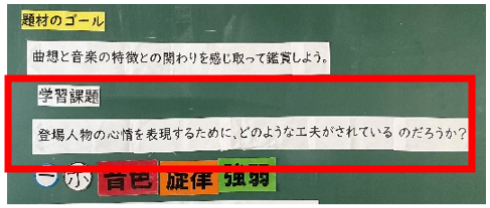
御所浦小学校では、R-PDCAサイクルと学級経営案を一体化させています。年度当初に昨年度の①県学力・学習状況調査②NRT③知能検査の結果をもとに学力向上への④取組を計画しました。学期毎に⑤評価を行い、具体的な取組を見直していくR-PDCAサイクルで学力向上を図りました。

また、学期の初めに⑥学級力アンケートを実施し、児童と⑦分析を行いました。学級の課題を児童が自ら改善していく⑧スマイルアクションに取り組んで学期末に⑨評価し、次学期へつないで豊かな心の育成を図りました。

※文中の番号は図の番号を示す。

学びをつなげるための「振り返り」をいかした学習課題の設定
～ 阿蘇市立一の宮中学校～

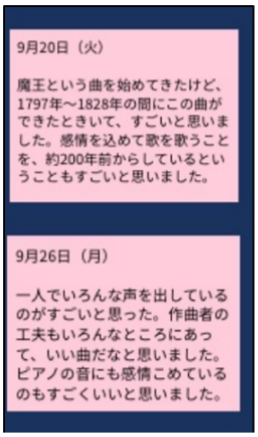
〇本時の学びを次時につなげるための「振り返り」の設定
〇生徒の学習意欲を高める学習課題設定



【学習課題の設定】

9月21日
魔王をはじめて鑑賞して、4つの役を1人で歌っていることに驚いた。感情を表すために色々な工夫がされていると思った。

【振り返りの記述】



【共有アプリケーションの活用】

題材の学びをつなげるために、授業の中で共有アプリケーションを活用し、生徒の学びの足跡を残す「振り返り」を行いました。
また、授業の導入部では、共有アプリケーションに残した前時の「振り返りシート」を活用しました。生徒自身が残した記述より、前時の復習を行いながら、本時の学習課題の設定を行うことで生徒の学習意欲を高め、学びをつなげる学習過程に取り組んでいます。

生徒が「単元のゴール」を意識するための取組と授業スタイルの徹底
～ 西原村立西原中学校～

〇授業者と生徒の単元のゴールの姿の共有
〇西原村授業スタイルを意識した授業計画

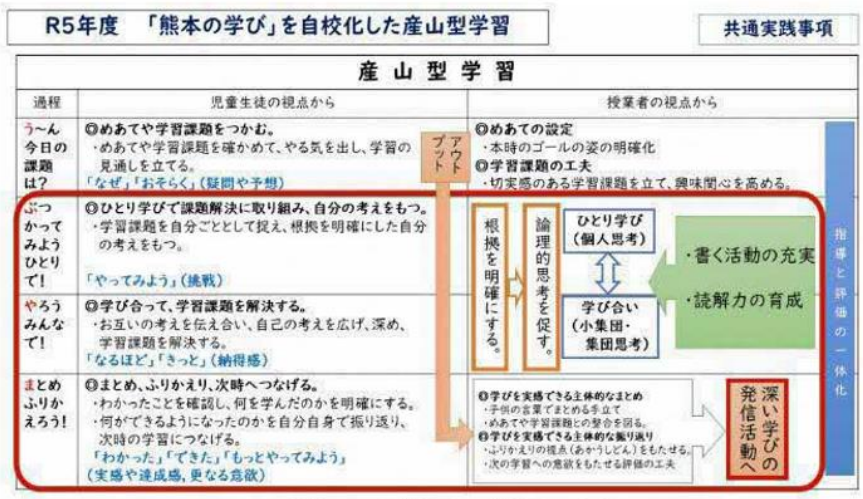
【単元のゴールの姿の共有】

【西原村授業スタイル】

西原中学校では、毎時間「単元のゴール」を生徒と教師が共有する場面を設定したり、生徒自身が課題解決のプランを作成したりして、生徒の主体的な学びを促しています。
また、西原村授業スタイルを意識した授業計画を行うことで、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにしたり、生徒の振り返りを次の授業づくりに生かしたりしています。これらの取組により、教師の自らの授業を省察する力が高まるなど、一人一人の授業力向上がみられます。

単元で学んだことを生かして解決する学習活動の設定
～ 産山村立産山学園～

○課題解決学習を取り入れた「産山型学習」の展開
○根拠を明確にした自分の考えをもたせ、表現し合う活動の充実

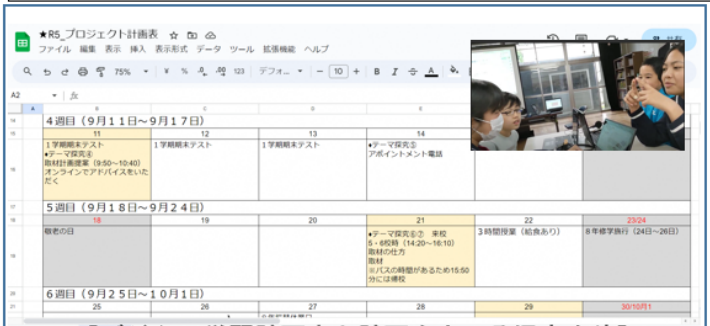


【産山型学習の学習過程】

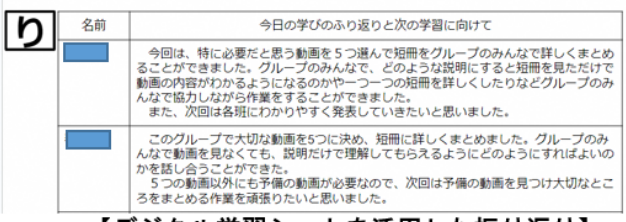
産山学園では、単元の導入時に、子供自らが「やってみたい」「なぜだろう」と感じる切実感のある学習課題を設定しています。その上で、根拠を明確にした書く活動を取り入れることで論理的思考を促しています。さらに、まとめと振り返りを通して、自らの学びを発信活動へとつなげる産山型学習を展開しています。

デジタルシートを活用した学びを調整する力の育成
～高森町立高森東学園義務教育学校（第５～８学年合同　高森ふるさと学）～

○デジタル学習計画表を基にした課題の設定・解決方法の検討
○学びの状況を把握するためのデジタル学習シート



【デジタル学習計画表と計画を立てる児童生徒】



り	名前	今日の学びのふり返りと次の学習に向けて
		今回は、特に必要だと思う動画を５つ選んで短冊をグループのみんなで詳しくまとめることができました。グループのみんなで、どのような説明にすると短冊を見ただけで動画の内容がわかるようになるのかや一つ一つの短冊を詳しくしたりなどグループのみんなで協力しながら作業をすることができました。 また、次回は各班にわかりやすく発表していきたいと思いました。
		このグループで大切な動画を5つに決め、短冊に詳しくまとめました。グループのみんなで動画を見なくても、説明だけで理解してもらえるようにどのようにすればよいのかを話し合うことができた。 ５つの動画以外にも予備の動画が必要なので、次回は予備の動画を見つけ大切なところをまとめる作業を頑張りたいと思いました。

【デジタル学習シートを活用した振り返り】

高森ふるさと学（総合的な学習の時間）では、「持続可能な町づくり」をテーマに、第５～８学年の異学年合同授業を行い、「町おこしの取組」を動画ニュースにまとめる活動を行っています。児童生徒は、デジタル学習計画表を基に、学習の見通しを持ちながら、１時間ごとにめあてを立て、４つの視点で取材班に分かれ、活動に取り組みました。

振り返りの場面ではデジタル学習シートを活用して、自分の学び方を振り返り、次時はどのような学び方をしていくのかを記録していきました。

児童生徒は、取材に向けて取材内容の検討を行ったり、取材先へアポイントメントを取ったりしました。授業日を示すことで学びを調整する姿が見られました。

第３章 【「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫】実践例

主体的な学びをつくる導入の工夫
～山鹿市立めのだけ小学校～

○児童の「問い」がうまれる資料等の掲示
○グループで疑問を出し合い、「問い」を分類する活動

【グループで内で出た「問い」を分類する児童】
山鹿市の水害の資料で気付いたことから、「なぜ」「もっと知りたい」という「問い」を出し合い、分類しています。

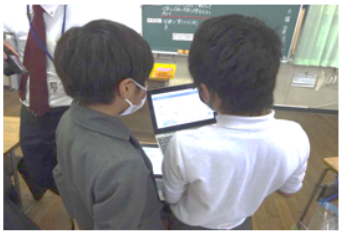
本事例は、第４学年社会科「自然災害にそなえるまちづくり」での取組です。
まずは、児童にとって身近な山鹿大橋の普段の姿と災害時の姿の写真や山鹿市で起きた水害時の写真等を提示しました。そのことにより児童は「水害」についての関心を高め、一人一人が問いを持つことができました。
次に、一人一人から出された「問い」を「場所・人・時間・様子」の視点で分類する活動を行い、「一番気になるスペシャルなはてな」に向かって、話し合いました。
最後に、昔と今との災害時のデータから、水量が増加しているものの、負傷者や倒壊した家屋が激減していることを知り、学習課題を設定しました。
このように、学びの主体としての児童を育てるために、導入の工夫を行っています。

第３章 【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

児童の思考を促し、学習を深める取組
～玉名市立横島小学校（第６学年算数）～

○考えを伝え合う場面における、「話合いのねらい」及び「話合いの視点」の明示

○話合いのねらい
考えを伝え合うことで、自分の考えを整理したり広げたりする
○話合いの視点
・表の見方や計算のしかたについて自分と同じ考えの人だけでなく自分と異なる考えの人とも意見を伝え合う
・自分と友達の考えの共通点や相違点を明らかにする



【「話合いのねらいや視点」に沿って話し合う児童】

児童の思考を促し学習を深めることができるよう、左のように話合いのねらいと視点を明示しました。
ねらいと視点を明示することで、自分と友達の考えの共通点や相違点を明らかにすることができました。このことで、児童は、比例を利用して問題を解決するためには、表を横に見て枚数の変化に伴う重さの変化に着目したり、表を縦に見て枚数と重さとの１対１の対応の特徴等に着目したりするとよいと、自分の考えを整理したり広げたりして、学習を深めることができました。

学びの主体となる生徒のアウトプットを軸にした授業づくり
～ 南阿蘇村立南阿蘇中学校～

○生徒が自分の考えをもち、伝え合い、学び合う場面の設定と共通実践

【自分の考えをもち、互いに学び合う様子】

まずは、生徒が自力解決で自分の考えをもちます。次に、自分の考えを伝え合いながら、他の人の意見を参考にし、課題解決に向かいます。

生徒が、自分の考えをもち、伝え合いながら、共感したり、疑問を解決したりする場面を設定し、それを学校全体で共通実践しています。

生徒に根拠を明確にしたアウトプットを促すことで、学習内容が深まり、新しい発見や気付きが生まれるなど、生徒が学びの主体となる学習に繋がってきました。

また、生徒アンケートでは、「自分の意見を積極的に発言すること」の項目について、肯定的に捉えている生徒の割合が増加しました。多くの生徒が意欲的に発言できるようになってきています。

伝え合い、互いに学び合う力を育成するための取組
～芦北町立湯浦小学校～

○伝え合い、互いに学び合う力を育成するための対話活動（おさんぽ学習）

【「おさんぽ」学習を位置付けた算数科の授業】

湯浦小学校では、算数科の授業を中心として、「おさんぽ学習」という対話活動を行っています。

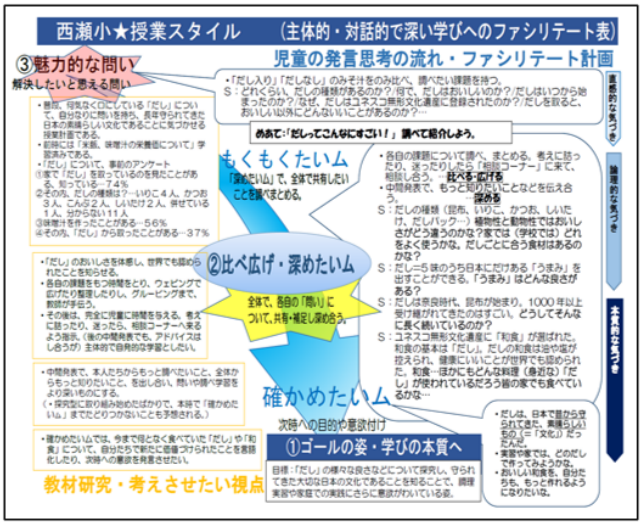
「おさんぽ学習」とは、個人思考の後に、児童が自分の席を離れ、他の人と交流し、自分の考えをアウトプットし合うという対話活動です。個人思考で児童が確実に自分の考えをもてるように、教師は伝え方について助言を行うなど、表現内容のレベルアップを図っています。

その結果、全体共有の場面では、児童から「先生、前に出て説明していいですか？」という声がよく上がるようになりました。黒板に書いたり、モニターを指し示したりしながら、自分の考えを丁寧に分かりやすく説明する姿が多く見られています。

第３章 【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

「教師が教える授業」から「子供たちとつくる学びの場」への授業改善の取組
～人吉市立西瀬小学校～

○ファシリテート表の作成及び活用による授業づくり



【家庭科の授業で作成したファシリテート表】

教師の授業に対する意識を、「教師が教える授業」から「子供たちとつくる学びの場」へと転換する授業改善を目指し、本校独自のファシリテート表を作成して、次の３つを重視しています。

①子供の発言を引き出し、つなぎ、価値付けする
②授業の本質に迫る学びの場（「深めたいム」）を授業の核として設定する
③子供の意欲を持続させ学びにつながる「問い」を検討・吟味する

教師は、左図のようなファシリテート表を作成及び活用し、子供が主体的に学び、学ぶ楽しさを味わうことができる授業を目指して日々の教材研究に臨んでいます。

また、授業研究会の際は、作成したファシリテート表を基に、教師同士が同じベクトルで教材研究や省察を行うことで、ＯＪＴの促進につながっています。

第３章 【「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫】実践例

１人１台端末を活用し、自己の学びや伸びを実感したり振り返ったりする取組
～宇城市立当尾小学校・豊福小学校～

○「本時を通して英語で言えるようになったこと」を動画で記録
○動画視聴による「伸びの実感」、「学びの振り返り」

【授業の終末に、本時で言えるようになった表現を付け加えて録画している児童】

本単元では、学習のゴールを「『My Hero スピーチ大会』をしよう」と設定しました。

各時間では、まず、あこがれの人物の人柄や得意なことについて伝えるための基本的な表現を、英語専科との音声でのやり取りを通して学びます。その後、自分が本当に伝えたい内容について、友達同士や教師と何度も何度も音声練習をします。

終末には、前時までの内容に、本時で学んだ表現を付け加えた英語のスピーチを、各自のタブレットに録画します。そして、次時の始めに録画したものを視聴し、前時までの学びを振り返ります。

このように、児童が自らの学びの様子を視覚的に振り返りながら、伸びの実感につなげています。

第３章 【「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫】実践例

振り返りを、学びの自覚・意欲に繋げる取組
～西原村立山西小学校～

○「児童の振り返り」を活用した授業改善
○単元を見通した振り返りの場面と視点の設定

西原村では、「目指す学びの姿」を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の３つの視点で捉えるために、児童生徒の発言内容や記述を基に各授業の振り返りを行い、授業改善につなげています。

山西小学校では算数科の学習を中心に研究を進め、単元を見通した振り返りの「場面と視点」を、計画的に位置付けています。

左図のようにワードクラウド等を活用しながら、集団の中で理解が遅れがちな児童の記述に着目して変容を分析することで、児童一人一人の問題解決能力の育成に向けた授業改善につながっています。

【第４学年算数科「角の大きさ」における振り返り】

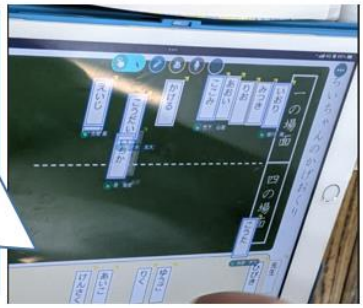
第３章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるＩＣＴの効果的な活用】実践例

児童の読みを可視化し、違いを基に学びを深めるＩＣＴの活用
～山鹿市立鹿北小学校（第３学年国語）～

○ＩＣＴを活用した、自分の考えの可視化とそれを基にした対話活動

気持ちの移り変わりを心情曲線で表示しました。

ＩＣＴで児童全員の考えが分かるように提示し、それぞれの考えの違いが分かるように可視化しました。



【ＩＣＴを活用した授業の様子（第３学年国語「ちいちゃんのかげおくり」より）】

教材文「ちいちゃんのかげおくり」において、場面ごとの人物の心情を比較する学習で、タブレットに表示した心情曲線を使い、「一と四の場面のどちらのかげおくりが幸せだったのだろうか」という学習課題を設定しました。

児童は自分の考えをタブレットでまとめ、教師は児童全員の考えが分かるように提示しました。可視化された考えを基に、児童はそれぞれの考えの違いについて話し合い、場面の違いによる心情変化を読み取っていきました。

振り返りでは、自分の考えを再びタブレットで表現し、授業開始時と授業終了時の自身の読みの変容とその理由をまとめることができました。

第３章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるＩＣＴの効果的な活用】実践例

共同編集機能を活用した振り返りの実践
～大津町立大津小学校（第６学年算数）～

○共同編集機能を活用した児童の振り返りの一斉入力
○教師による項目ごとの価値づけと評価・次時の課題

共同編集機能のある表計算ソフトを利用し、授業終末の５分間で振り返りの一斉入力をしています。児童の振り返りに対して、教師が項目ごとに色をつけ、振り返りの価値づけを行います。児童の振り返りに教師の評価や価値づけが加わることで、振り返りの内容の深まりが出てきました。さらに、次の授業の最初に児童の振り返りの中から出た疑問をもとに課題の設定を行うなど、振り返りの活用を行っています。

「分数×分数」ふり返り　7月3日　　振り返りの視点

			【先生から】				
	ふり返りのポイント	① 今日の学習で、やったこと ② 分かったこと・できたこと・分からなかったこと・難しかったこと など （友だちの考えを聞いて、思ったこと・発見 なども書ければ Good！！） ③ 次に学習したいこと、ぎ問に思ったこと	具体的に教えてほしい！（何を学んだの？）	友達から学んだことはあった？	次の課題は？	がんばって！	よい自己評価☆
	教師による価値づけ	友だちの考えを聞いて　次にやりたいこと　疑問・分からなかったこと	B	B	B	B	A
4		今日は、掛け算の性質は掛け算にもあるのかを調べました。やってみて、最初の予想は掛け算の性質はあると思っていて、逆で考えたときに、みんなそれぞれで式を考えていたので、役割分担したらいいのにと言われて、あ一確かにと思いました。去年やった性質のところがよく分かってなくて、昨日教科書整理したときにちらっと見たから、去年のが結構出てくるから、とっておくべきだなと思いました。小数を分数に直すときのやり方を覚えていない人が結構いたので、復習していきたいです。次は3つぐらい数字が出てくるのがやりたいです。	☐	☐	☐	☐	☑
5		今日は、小数×分数の求め方を考えました。小数のときは、小数を分数に変えると小数×分数の答えが求められるということがわかりました。そして、練習問題では、小数×分数×整数の問題も出ました。でも解けたので、良かったです。2時間目では、掛け算の性質は、分数の掛け算もあるのかを調べました。	☐	☐	☐	☑	☐

振り返りの評価

【教師よる価値づけを行う振り返りシート】

第３章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるＩＣＴの効果的な活用】実践例

「社会的な見方・考え方」を働かせるＩＣＴ活用の工夫の取組
～ 益城町立益城中央小学校（第５学年社会科）～

○導入場面における「問い」を引き出すためのＩＣＴの活用
○展開場面における「深める・まとめる」ためのＩＣＴの活用

【１人１台端末上の資料を示して説明する様子】

【導入場面】
児童に「追究の面白さを実感」させるために、ＩＣＴ機器を活用し、課題解決したくなるような「なぜ」「おそらく」が生まれる資料提示の工夫をしています。例えば「無音の動画」を視聴させ、児童の疑問（なぜ）や予想（たぶん）を引き出しています。

【展開場面】
課題追究の充実のために、１人１台端末を通して、教師は複数の資料を児童に提示します。また、児童が説明するときには、根拠となる資料を示しながら意見交換します。このように、社会的な見方・考え方」を働かせる追究の視点（空間・時間・相互関係）を意識したＩＣＴ活用の工夫を行っています。

第３章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるＩＣＴの効果的な活用】実践例

自分の考えをもち、進んで表現する児童の育成に向けた、学習過程に応じたＩＣＴ活用の工夫

～ 甲佐町立乙女小学校～

○情報を収集し、考えを広げ深めたり、表現したりするためのＩＣＴ活用
○自らの気付きを促すＩＣＴを活用した振り返りの工夫
○情報活用能力の向上の取組「Ｔ１グランプリ」の開催

【情報の収集】

検索機能を活用し、情報を集め、必要に応じて、教師が資料を一斉に送信することもあります。児童は、自分の考えに応じた資料を選択し、課題解決にあたります。

【考えを広げるためのＩＣＴ活用】

デジタル教材を活用し、長方形や正方形を画面上で切り、その形を動かしながら、自分の考えを友達に説明することで、自分の考えを広げ、深めています。

【振り返りの工夫】

授業終末の板書を撮影した写真付きの振り返りカードを配付し、児童は、シートに書き込みをしたり、振り返りの材料にしたりしながら、自分の考えの深まりを記述しています。

【情報活用の力の向上の取組】

【タイピングタイム】

【休み時間の活用】

【意欲を高める工夫】

情報活用能力の向上の取組として「Ｔ１グランプリ」を開催し、全学年同じタイピングソフトを使い、タイピングの速さと正確さを定期的に測定しています。（年３回実施）

第３章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるＩＣＴの効果的な活用】実践例

ＩＣＴを活用して主体的に学ぶ生徒の育成に向けた授業等の取組

～八代市立第二中学校～

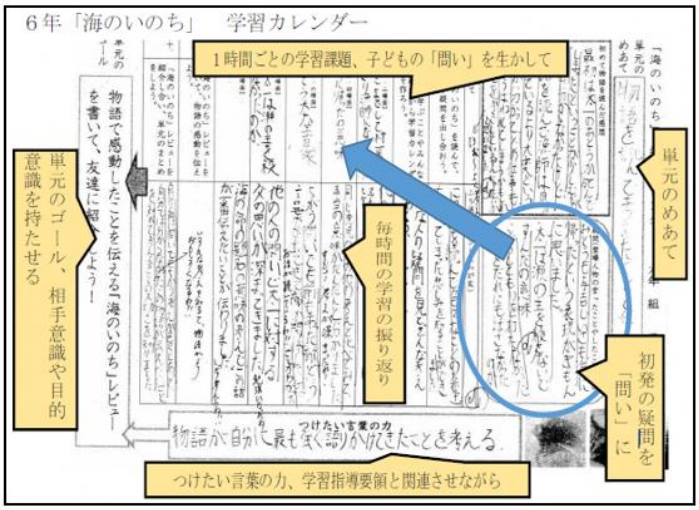
①ポジショニング機能を利用した道徳授業
②動画撮影による実技演習の確認
③校内研修等におけるＩＣＴ活用（ＯＪＴ）
④リモート機能を使った話合い活動

①ポジショニング機能を活用し、生徒それぞれの考えを送信して、クラスの考えを共有しています。
②音楽の授業において、琴の弾き方を学ぶ場面で、自分が弾いている様子を動画で撮影してもらい、確認することで技能を高めています。
③校内研修を含めＩＣＴを積極的に活用し、ＯＪＴとしてその活用方法等を学んでいます。
④班活動にリモートで参加するなど、オンラインでも授業に参加できるようにしています。

第４章　【子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザイン】実践例

児童の「問い」から始まる「学習カレンダー」による単元デザイン
～ 宇土市立宇土小学校 ～

○児童の「問い」をもとにした「学習カレンダー」（単元デザイン）の作成と活用



【学習カレンダー（第６学年国語「海のいのち」）】

「学習カレンダー」を以下の手順で教師と児童が一緒に作成し、活用しています。

① 単元のめあてや本単元で身に付ける力を確認し、単元のゴールを設定する。
② 児童が「わたしの問い」を立てる。
③ 学級全体で「わたしの問い」を出し合って整理し、共有したい「みんなの問い」を確認する。（問いの精選）
④ 「みんなの問い」を場面ごとに整理し、解決する順番を考える。
⑤ 「学習カレンダー」に沿って学習を進め、「みんなの問い」を解決していく。

毎時間の学習の終わりには、「学習カレンダー」に振り返りを記入しています。

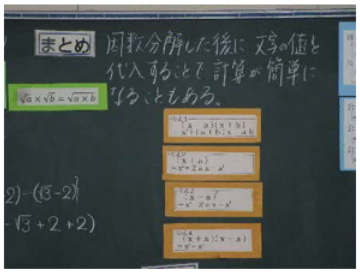
また、「学習カレンダー」には、単元のめあてや付けたい言葉の力を書くことで、いつでも確認できるようにしています。

第４章　【子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザイン】 実践例

アウトプット重視による主体性の育成と問題解決能力の向上
～長洲町立腹栄中学校～

○定着を図るためのアウトプットを意識した授業づくり

【学び合いによるアウトプット】



【まとめの時間を確保】

【家庭学習確認ボード】

学校でアウトプットの場を確保するとともに、家庭学習（復習）につなげることで定着を図っています。

学習内容の定着を図るために、「アウトプット」をキーワードにした授業づくりを行っています。特に定着を図るアウトプットの実践として、導入での前時の確認（復習）、学び合い・発表の場の設定、まとめの時間の確保を行っています。

また、家庭学習につなげるための家庭学習確認ボードの活用を行っています。

このサイクルは、「２週間で３回アウトプットすることで短期記憶は長期記憶となる」という脳科学の分析に基づいた取組です。

第４章 【子供たちの課題克服に向けた教師の授業(単元)デザイン】実践例

地域人材や他校との交流を取り入れた「生活科」の単元デザインにおける取組
～ 南阿蘇村立南阿蘇西小学校（第 １学年 ）～

〇秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の特徴を見つける取組
〇地域人材や他校の児童、保育園児等、多様な人との交流を取り入れた学習活動

【 阿蘇管内の学校との交流授業の様子】

本単元終了時のゴールの姿を「自然と関わる活動に取り組んだことを生かして、これからも自然を取り入れながら自分の遊びや生活を楽しくしようとする姿」と設定しました。単元の終末では、自分が作ったおもちゃで校区の保育園児と一緒に遊びます。

単元の導入では、地域在住の生物学者の方をＧＴとしてお招きし、校庭や校区から秋のお宝（草花、樹木、虫等の動植物）探しをしました。

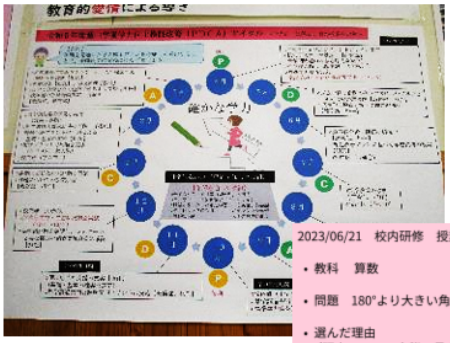
展開場面では、児童が探したお宝を管内の他の学校（２校３学級）と伝え合い、お互いの学びを深め合いました。

このように、多様な人との交流やふれあいを通して、児童が楽しく学べる工夫を行っています。

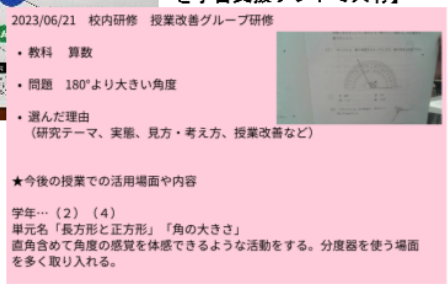
第４章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

自校の学力向上検証サイクルを活用した年間を通した取組
～ 産山村立産山学園～

〇産山学園学力向上検証改善（ＰＤＣＡ）サイクルの実行
〇全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の結果分析と問題を活用した授業展開



【産山学園学力向上検証改善（ＰＤＣＡ）サイクル】



【校内研修で協議した内容を学習支援ソフトで共有】

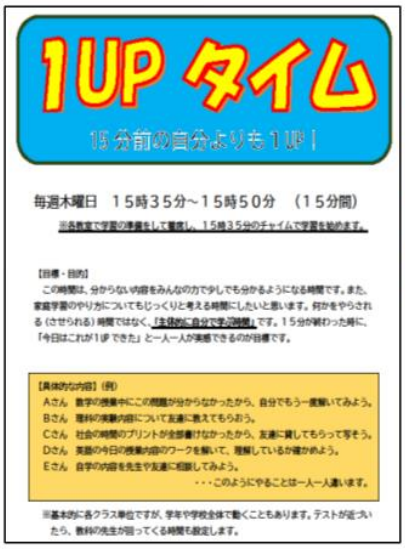
年度当初に学力向上に向けた独自の検証改善（ＰＤＣＡ）サイクルを作成し、年間で２サイクル、２回検証できるようにしています。検証改善サイクルは全職員が目にする場所に掲示して意識付けを図っています。

また、校内研修を活用して、全職員で全学調や県学調等の結果分析や、課題となった問題を職員が実際に解く等しています。学力面での課題の解決に向けてどのような授業展開が必要かを協議する時間を設けることで、そこで出てきたアイデアを実際の授業に活かすことができています。

第４章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

生徒が個別学習やグループ学習で主体的に学ぶ「１ＵＰタイム」の取組
～ 甲佐町立甲佐中学校～

○「主体的に自分で学ぶ時間」を設定し、自らの学びをデザインする取組
○ 生徒の「分かった・できた」「やってみよう」という達成感や学習意欲を高める取組



1UP タイム

15分前の自分よりも1UP！

毎週木曜日　１５時３５分～１５時５０分　（１５分間）

※各教室で学習の準備をして集合し、１５時３５分のチャイムで学習を始めます。

【目標・目的】

この時間は、分からない内容をみんなの力で少しでも分かるようになる時間です。また、家庭学習のやり方についてもじっくりと考える時間にしたいと思います。何かをやらされる（させられる）時間ではなく、「主体的に自分で学ぶ時間」です。１５分が終わった時に、「今日はこれが１UPできた」と一人一人が実感できるのが目標です。

【具体的な内容】（例）

Aさん　数学の授業中にこの問題が分からなかったから、自分でもう一度解いてみよう。

Bさん　理科の実験内容について友達に教えてもらおう。

Cさん　社会の時間のプリントが全部書けなかったから、友達に貸してもらって写そう。

Dさん　英語の今日の授業内容のワークを解いて、理解しているか確かめよう。

Eさん　自学の内容を先生や友達に相談してみよう。

・・・このようにやることは一人一人違います。

※基本的に各クラス単位ですが、学年や学校全体で動くこともあります。テストが近づいたら、教科の先生が回ってくる時間も設定します。

【「１ＵＰタイム」の説明資料】
生徒に配付し、教室にも掲示しています。

【「１ＵＰタイム」での学習の様子】

毎週木曜日の日課を工夫し、「１ＵＰタイム」と称して１５分間、学力充実に向けた取組を行っています。基本的に、学級内で教師に質問する、個人やペア、グループで学習する等、学習形態を自分で選択し「何かをやらされる、させられる時間」ではなく、生徒一人一人が「主体的に自分で学ぶ時間」として設定しています。終了時には、「今日はこれが１ＵＰできた」と実感することを目標に取り組んでいます。

また、生徒同士が家庭学習やテスト勉強の方法等をアドバイスし合えるよう、学年間や他学年とも交流し、学校全体でも柔軟に取り組むことができるようにしています。

第４章 【子供たちが自らの学びをデザインできるようにする取組】実践例

調べたことを整理することで学習課題を見いだし、解決に向かう取組
～小国町立小国小学校～

○調べたことをまとめたり、整理したりしながら学習課題を見いだしていく取組
○課題解決に必要な情報を調べ、解決に向かっていく取組

【アクティブ・ラーニング・ルームでの児童の学習の様子】

児童の言葉や考えをもとに学習課題やめあてを設定し、児童の主体的な活動によって課題の解決に向かうことができるような取組を行っています。

第５学年社会「低い土地のくらし」では左の①から④の流れで学習を行いました。

小国小学校では、児童が主体的・対話的に学びを深めるために「アクティブ・ラーニング・ルーム」が設けられています。「アクティブ・ラーニング・ルーム」を活用した学習では、調べる方法（教科書、地図帳、図書、インターネット等）や発表する方法（ホワイトボード、透明ボード、プレゼンテーションソフト等）において、児童が自分の学びにふさわしいツールを選択する等、自己の学びの調整を図りながら、積極的に課題を解決する姿が多く見られるようになりました。

多面的・多角的な視点を取り入れるための話合い活動の充実への取組
～阿蘇市立一の宮中学校～

○多面的・多角的な視野を取り入れることで自分の意見をよりよく練り上げる話合い活動（「ＹＯＵ　Ｉトーク」）の充実

【話合い活動（ＹＯＵ　Ｉトーク）の様子】

「主体的・対話的な学び」の促進を図るため、話合い活動（「ＹＯＵ　Ｉトーク）の充実に力を入れています。話合い活動を進める際には、

①ペアで意見を交流する
②グループで話合いを練り上げる
③メンバーを入れ替えて意見を交換し新たな視点を取り入れる

と順を追った話合い活動を進めています。最初からグループ活動にすると、意見を言えないまま話合いを終える生徒がいます。少人数から話合い活動を行うことは「必ず意見を述べる場」を確保すること、表現する活動に自信を持つことを目的としています。さらに、話合いをまとめた状態から新たにグループを変えることによって、より多面的・多角的な視点で物事を考えることができるよう取り組んでいます。

自分で決めて取り組む朝自習と家庭学習の取組
～多良木町立黒肥地小学校～

○学習を自己管理する力の育成
○「やってみよう」「できた」で学習意欲を高める取組

【自己決定・自己選択して学習に取り組む様子】

学習を自己管理する力の育成をねらいとして、本校では、朝自習を自己決定・自己選択して学習する体験の場としています。その際、「課題の自覚化」「学習方法の決定」「振り返り」によって、児童自身で課題や学習活動を決定します。

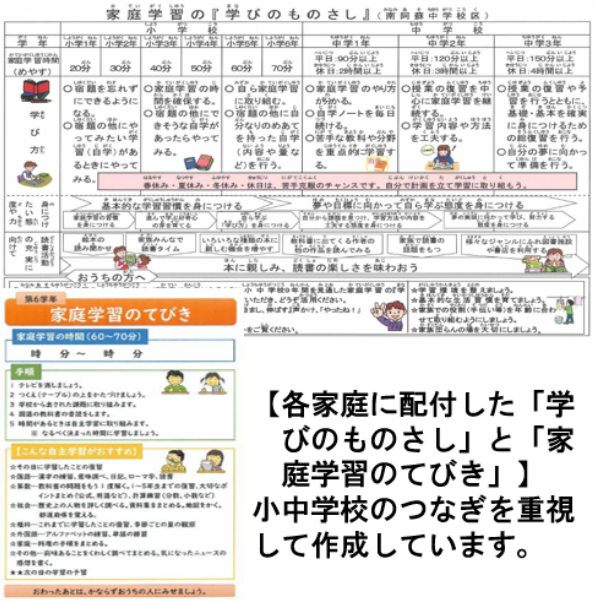
また、教師は、個々の実態に応じた学習内容になっているかどうか、進捗状況を評価して助言します。

この取組に加え、家庭学習において「いつ」「何を」「どのように」学習するのかを計画する時間も設定しており、家庭学習とつながりのある学習活動となることを意識して取組を進めています。

第５章　【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈学校編〉】実践例

よりよい家庭学習の習慣化への取組
～南阿蘇村立久木野小学校～

〇小・中学校９年間を見通した家庭学習の「学びのものさし」を保護者と共有
〇家庭学習の手順や内容を示した「家庭学習のてびき」と自主学習ノートの活用



【各家庭に配付した「学びのものさし」と「家庭学習のてびき」】
小中学校のつなぎを重視して作成しています。

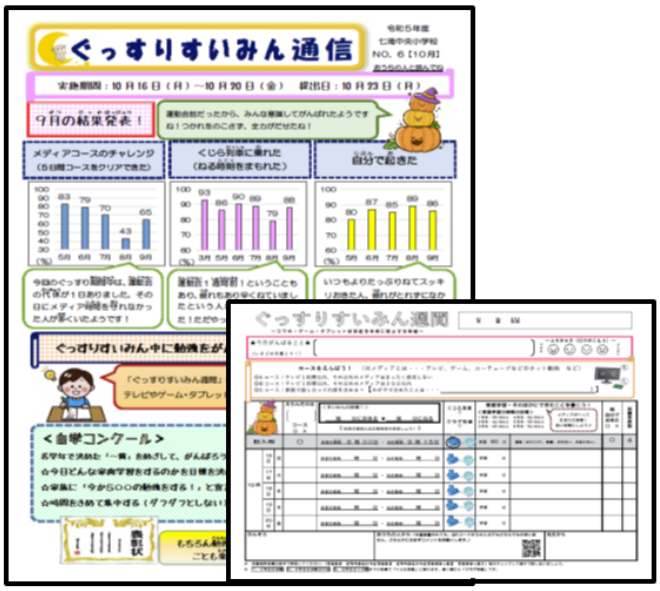
南阿蘇村では児童の「よりよい家庭学習の習慣化」を育むため、小中学校のつなぎを重視した家庭学習の充実を図っています。小学校第１学年から中学校第３学年までの学習時間、学び方、身に付けたい態度や力などを示した「学びのものさし」や家庭学習の手順や内容を示した「家庭学習のてびき」を児童の実態に合わせて作成し、児童や保護者への配付、説明を行いました。

また、久木野小学校では高学年向けに、中学校で取り組んでいる自主学習ノートの小学校版を作成し、小学校から中学校へ家庭学習の習慣のつながりを意識した取組を行うことで、少しずつ家庭、児童生徒の家庭学習への意識が高まってきています。

第５章　【学習習慣形成の素地となる環境づくり（五者連携）】実践例

健康や成長のために大切な「すいみん」をしっかりとるための取組
～ 御船町立七滝中央小学校～

〇家庭における児童の生活習慣改善に向けて、家庭と連携した取組
〇目標の達成に向け、児童や家庭に意識付けを行い、更に通信で啓発



【記録シート（右）と提出後に発行する通信】
子供たちの「すいみん」の状況やメディア時間を分析して発信しています。

七滝中央小学校では、平成３０年度から「ぐっすり睡眠週間」と題して、児童に「すいみん」の大切さを理解、実感させ、スマホ、ゲーム、タブレットなどのメディアへの依存を未然に防止する取組を行っています。

児童は、毎月１週間、個人で立てた睡眠の目標や学年に応じた家庭学習の目標を達成するため、家庭での生活を「記録シート」に記録します。また、保護者評価欄を設けて、学校・ＰＴＡ・地域が一体となって児童の健康課題に向き合い、健全育成に取り組んでいます。

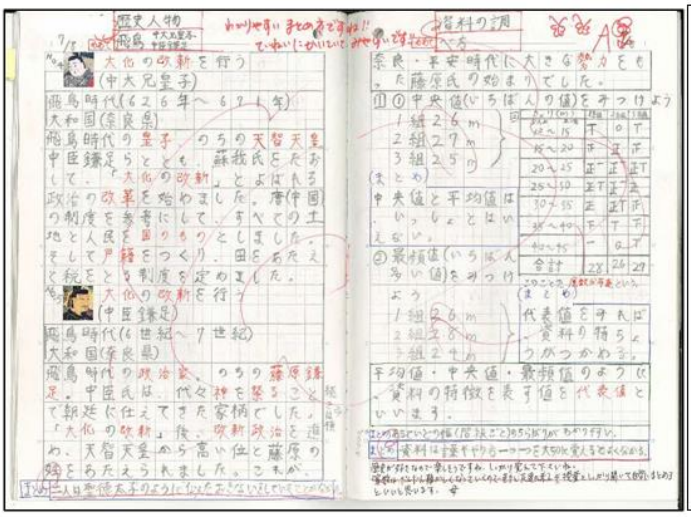
また、令和４年度からは家庭学習の時間の欄を設けるなど、バージョンアップしています。

学校のＨＰ【本校の教育→保健室より】にも掲載しています。

第５章　【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈子供編〉】実践例

家庭学習の質的向上を図る学校と家庭の二人三脚の取組
～球磨村立渡小学校～

○共通家庭学習ノート「ぐるぐるノート」の活用
○学習内容と学習時間を児童自身が調整する力の育成



【実際に使用している「ぐるぐるノート」】

渡小学校では、家庭学習ノートとして１冊のノートを児童が輪番制で使用する「ぐるぐるノート」の取組を進めています。

児童が日替わりで「ぐるぐるノート」で学習し、次の人に回していくため、他の児童の学習内容を参考にすることができます。

また、保護者が励ましのコメントを記入する欄を設けることで、児童の家庭学習に取り組むやる気を高めるとともに、家庭学習の取組内容や学習量について、保護者の関心を高めることにつながっています。

さらに、毎月、児童自身が家庭学習を自己評価する「学習日記」の取組も行っており、学習内容と学習時間を児童自身が調整する力を育てています。

第５章　【ＩＣＴを活用した家庭学習】実践例

Ｗｅｂアンケートを用いた家庭学習と授業の連携
～菊陽町立菊陽中部小学校～

○単元におけるＷｅｂアンケートを活用したレディネステストの実施
○家庭学習における家庭へのインタビュー、振り返りによる授業との連携

身近な自動車に関するアンケート調査から、自動車に対するニーズを把握し、学習内容へとつなげていく。

【Ｗｅｂアンケート結果】
「なぜ、その自動車を選びましたか？」という質問を家庭学習で行いました。

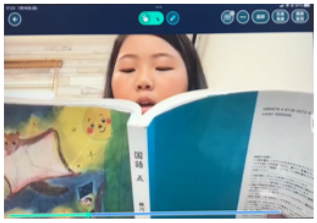
単元「自動車をつくる工業」（社会）のレディネステストをＷｅｂアンケートのテスト機能を用いて家庭学習で実施しました。自動採点や結果の共有により単元に必要となる知識や技能を事前に知ることでき、学習の準備を整えることができました。

また、単元の始めに自動車に対する家庭の考えを各自がインタビューし、Ｗｅｂアンケートにまとめることで自動車づくりと自分たちの生活をつなげて考えることができました。

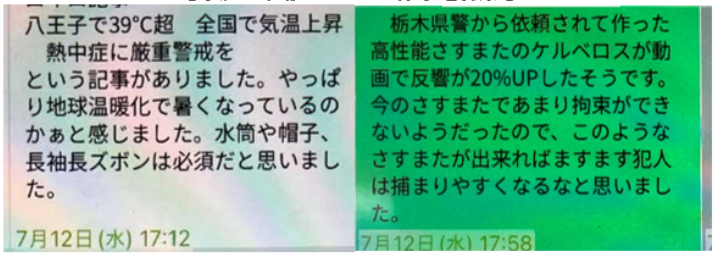
更に、授業の振り返りを家庭で行うことで授業時間の有効活用が可能となり、Ｗｅｂアンケートを活用することで学習履歴の蓄積が可能となりました。

１人１台端末を活用し、学習意欲と学力の向上を目指した家庭学習の取組
～ 南小国町立りんどうケ丘小学校（高学年）～

〇家庭学習における１人１台端末による音読の動画撮影
〇学習支援ソフトを活用し日記及び新聞記事等に関する感想をオンラインで提出



【家庭で音読している様子を撮影】



【提出された新聞記事等への感想】

家庭学習で音読をする際は、１人１台端末で様子を撮影し、オンラインで提出しています。家庭での音読の様子や児童の変容を担任が把握できるようになりました。また、動画を撮影することで音読にも力が入り、教材文への理解が以前より進んでいます。

さらに、新聞記事等の感想を１人１台端末に書き込み、提出する経験を積むことで、社会事象を自分事として捉え、自分の考えがもてるようになりました。情報が共有され、児童の考えが広がることにもつながりました。

授業と家庭学習の連動を意識した取組
～ 高森町立高森中学校～

〇１人１台端末の日常的な持ち帰りによる授業と家庭学習の連動（第１学年理科）

振り返り
ロウは温めても、氷水で冷やしたら、質量は変わらず体積が変化した。だから、他の物質もロウと同じような結果になるのか気になりました。

振り返りに「もっと調べたい」「疑問に思ったこと」という視点を取り入れています。

家庭学習での生徒の思考

- もしかすると、他の物質でも全て同じ結果になるのではないかな。
- 物質は状態変化するときに、体積と質量の変化の仕方に決まりがあるのかもしれない。
- 物質の溶け方のときのように粒子モデルを使って考えてみたらどうかな。

どの物質も同じような結果になるのかな？粒子モデルを使って考えてもいいね。

学習課題
物質の状態変化と体積・質量の関係を粒子モデルを使って考察しよう。

教師はコメント機能を活用して、フィードバックを行うことで、次時の課題設定をサポートすることができています。

【授業と家庭学習をつなぐ取組（第１学年理科）】

理科では、生徒の振り返りシートをドライブ上に保存しています。

授業の振り返りをもとに、家庭学習で次時の学習課題を考えることによって、次時の学習への意欲が向上し、見通しをもつことができます。

この取組を習慣化することで授業と家庭学習の連動を図り、学びを深めていくことにつなげています。

柱１　【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

基礎・基本の習熟を目的とした帯学習「やまがタイム」実施の取組
～ 山鹿市立山鹿小学校 ～

○「やまがタイム」による、漢字や計算を中心とした基礎・基本となる能力の育成
○漢字大会・計算大会の実施による、児童自身の成長の可視化

【やまがタイムの様子】

基礎・基本となる学力の習熟を目的に、週３回、掃除後の１５分間を「やまがタイム」として位置付けています。短時間で集中して基礎問題に取り組むことで学習内容の整理をするとともに、習熟の個人差に対応する時間にもなっています。

また、月に一度、漢字大会・計算大会を実施しています。「やまがタイム」で学習した内容を中心とした問題です。帯学習で何度も練習をしたうえで本番に臨むことで、漢字や計算に対して苦手意識をもっている児童も安心して取り組むことができます。テストの返却時に「こんなに合ってた！」と友達と喜ぶ児童の姿から、児童の成長の様子が伺えます。

柱１　【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

学習の意欲付けと、個に応じた学力充実の取組
～山鹿市立菊鹿中学校 ～

○学習の意欲付けと基礎・基本の徹底を目的とした、「KT（菊鹿タイム）」における学力充実タイムでの各種大会の実施
○教科別相談タイムによる、個に応じた指導・習熟度別指導の拡充

【計算力強化週間の取組】

【教科別相談タイム】
学習の仕方などについて個別に話す時間を確保しています。

帰り会の後に「KT」の時間を確保し、英語の「基本文大会」や数学の「計算力強化週間」などに取り組んでいます。練習問題を解いたらシールを貼ったり、満点賞の表彰をしたりして、子供たちの学習意欲を向上させ、基礎・基本の徹底を図っています。

「教科別相談タイム」を実施して、教科担当の先生と学習の仕方などについて個別に話す時間を確保しました。個に応じて発展的な課題を提示したり、苦手意識がある生徒には学習方法をアドバイスしたりしています。

柱１　【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

英語と数学における少人数授業の取組
～ 山鹿市立鹿本中学校 ～

〇英語と数学の授業における、生徒の習熟度に応じた少人数授業の取組

【習熟度に応じた少人数指導の様子】

英語と数学の授業において、習熟度に応じた少人数指導を行っています。生徒の理解度に応じて、基本的な問題を重点的に行ったり、発展的な学習に挑戦したりするなど、個に応じた指導を行っています。

また、学習内容によっては、生徒が家庭学習の難易度を自分で選択して行うことができるようにしています。その際、タブレットを活用し、定着状況の把握を行い、定着ができていない内容については、授業で復習を行うなどしています。

柱１　【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

子供たちに基礎的・基本的事項を身に付けさせるための複数体制での取組
～ 山都町立蘇陽南小学校～

〇朝自習と業間の時間を活用した「ベリ丸タイム」
〇授業時間に複数体制で支援する「みなみなタイム」

【ベリ丸タイムの様子】

【みなみなタイムの様子】

本校では、子供たちの基礎・基本の定着に向けて２つの取組を行っています。

「ベリ丸タイム」は、毎週火曜の朝自習の時間に漢字、木曜の業間で計算に、子供たちが個人で集中して取り組む時間です。課題は担任が準備し、教員全員で丸付けを行っています。

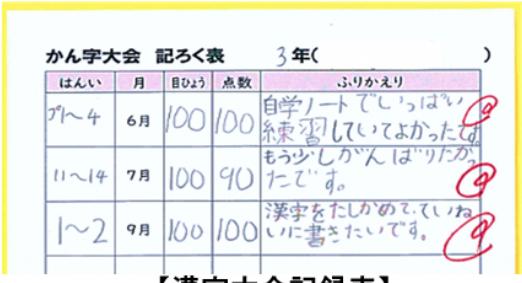
「みなみなタイム」は、授業において、その単元で学ぶ内容の定着を目指し、担任と他学年の担任（空き時間の活用）や管理職など複数体制で子供たちを支援する時間を設定して取り組んでいます。子供たちからの質問に複数で対応し、個別の支援を充実させることで、子供たちの学力の向上を目指しています。

柱１　【読み・書き・計算の習得の徹底】実践例

目的・手段等を明確にした活動の場の設定による漢字・計算大会の取組
～ 水俣市立水東小学校 ～

○「何のために」「何を」「どのように」を児童と共有した上での漢字・計算大会の実施
○教師の様々な手立てによる、児童の主体性の育成

【漢字大会の様子】



かん字大会　記ろく表　3年(　　)

はんい	月	目ひょう	点数	ふりかえり
プ1～4	6月	100	100	自学ノートでいっぱい練習していてよかったです。
11～14	7月	100	90	もう少しがんばりたかったです。
1～2	9月	100	100	漢字をたしかめていねいに書きたいです。

【漢字大会記録表】

全校で定期的に行っている漢字・計算大会の実施に当たって、初めに、教師が「何のために」「何を」「どのように」行うのかを児童としっかり共有します。

次に、児童は目標点数を設定し、その達成に向け、自分の課題に応じて、自主学習を進めます。その過程において、児童は自らの学習を振り返り、内容や方法をより質の高いものへと修正していきます。

教師は、児童の目標点数や学習状況に対して適切にアドバイスを行います。また、「漢字・計算大会」までのスケジュールを可視化し、児童の主体的な取組を支援していきます。

「漢字・計算大会」後、児童たちは取組を振り返り、次回の目標を設定します。教師は、目標を達成した児童数を掲示するなど、児童それぞれの頑張りに対して価値付けを行っています。

柱１　【読み・書き・計算の習得の徹底】実践例

基礎・基本が身に付くまで学校全体で組織的に粘り強く指導する取組
～ 津奈木町立津奈木中学校 ～

○授業や家庭学習、朝自習、「つなぎタイム」における基礎・基本の徹底
○週１回程度の小テスト実施による確実な見取り

令和４年度　県学調【数学】計算問題における課題改善状況確認シート（津奈木町立津奈木中学校）

中学校	小問	問　題	熊本県	管内	熊本県と管内の差	自校	熊本県と自校の差
1年	(1)	3−(+7)	67.9				
	(2)	(−4)÷9	72.3				
	(3)	$6\times(-2)^2$	77.4				
	(4)	(5x−8)−(2x−1)	50.4				
		平均	67.0				

確認回数	１回目	２回目	３回目
確認日	6月7日	9月7日	11月9日
その時の正答率	96.7	70	73.6
	−	83.3	70
	−	73.3	76.6
	−	46.7	56.6

【基礎・基本の定着状況を見取るためのシート】

津奈木中学校では、基礎・基本の徹底に向けた取組の一つとして、熊本県学力・学習状況調査における国語の漢字、数学の計算問題の正答率を８割以上にすることを数値目標として取り組んでいます。

授業の中の定着の時間を十分確保することだけではなく、家庭学習や朝自習、「つなぎタイム」（学力向上の時間）においても生徒が繰り返し基礎・基本に取り組む時間を取り、定着を図っています。

さらに、５教科においては週１回程度小テストを行い、基礎・基本の定着状況について確実に見取りを行うようにしました。

このように、学校全体で組織的取組を行ってきた結果、計算問題をはじめとして、多くの教科で基礎・基本の定着につながっています。

柱１　【定着確認の徹底】実践例

授業開始１０分間の積み重ねで基礎・基本の定着を図る取組
～ 宇城市立松橋中学校 ～

○知識・技能に関する問題に取り組むことによる基礎・基本の定着
○全国学力・学習状況調査及び熊本県学力・学習状況調査における課題の克服

【「かめ課題」に取り組んでいる様子】

数学科では、毎時間、授業開始から１０分間、「基礎・基本の定着の時間」を確保しています。この時間で扱うプリント「かめ課題」は、諸学力調査で課題が見られた問題や前時の復習問題、本時の内容とリンクした問題等の１０問程度で構成されています。また、正答率が低い問題については、繰り返し出題するなど、基礎・基本の定着、課題の克服に向けた工夫をしています。

この１０分間の取組を毎時間実施することで、生徒はこの時間を意識し、１問でも多く解けるよう頑張る姿が見られています。

昨年度は第１学年で取り組み県学力・学習状況調査において大きな成果が見られました。

今年度は対象を広げ、第１、２学年で「かめ課題」に取り組んでいます。

柱１　【定着確認の徹底】実践例

県学力調査の分析と誰一人取り残さない授業づくりの取組
～ 菊陽町立菊陽中学校～

○熊本県学力・学習状況調査を活用した「誰一人取り残さない授業づくり」に向けた共通実践

【グループ学習と個別の声かけの様子】

昨年度の県学調の結果分析をもとに、全国の平均正答率の５割未満の生徒の状況について、年度初めに全職員で共通理解を図りました。

研究授業では、平均正答率５割未満の生徒を職員間で共有し、その生徒に対する手立てや、理解について検証しています。グループ学習や個別の声かけを意識し「誰一人取り残さない授業づくり」に取り組み、定着確認の徹底を図っています。

今後は、今年度の県学力調査でこの生徒たちがどのように変容したのかを検証する予定です。

柱１　【読解力向上の取組】実践例

意見に説得力をもたせる「確かな読み」の力を鍛え、読解力向上を目指す取組
～西原村立河原小学校～

○発達段階に応じた「意見・根拠・理由付け」で、自分の意見を述べる活動の充実

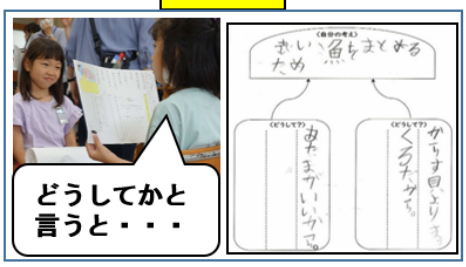
低学年は、自分の意見をまとめる時、どんな言葉や文に着目したのかを明らかにしながら、理由が言えるようになることを意識させています。

中学年は、低学年の学びに加え、自分の体験や経験を交えた理由付けができるようになることを目指し、取組を進めています。

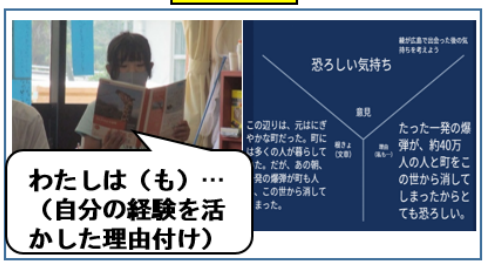
高学年は、ＩＣＴを積極的に活用したり、「意見・根拠・理由付け」を関連付けて考えられるシートを用意したりしながら、児童相互で表現する授業を行っています。

「意見・根拠・理由付け」で考える際、思考ツールを活用することで、児童の意見が説得力を増し、「漠然とした読み」から「確かな読み」に繋がってきています。

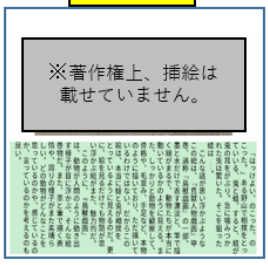
低学年



中学年



高学年

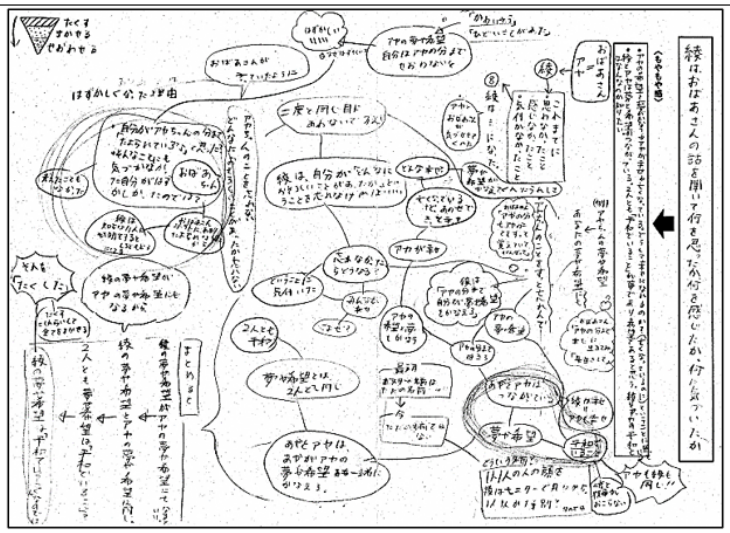


【発達段階に応じた「意見・根拠・理由付け」】

柱１　【読解力向上の取組】実践例

自分の考えを広げ深めるノート・ワークシート作成の取組
～ 八代市立八千把小学校（本校所属巡回型ＳＴの取組）～

○自分の考えを書き出すことによる思考過程の可視化
○対話を通した自分の考えの深化



【浮かんだ言葉をワークシートに書き出したもの
（５年国語「たずねびと」】

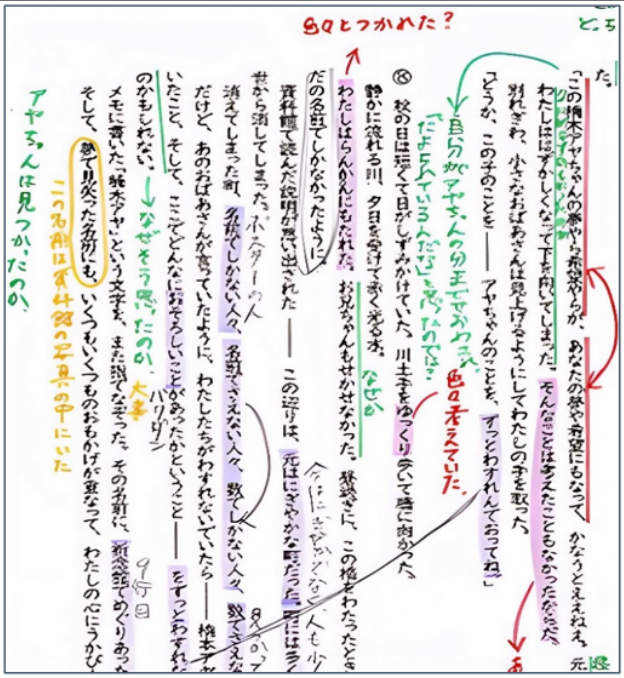
児童が思考する場面では、課題の解決に向けて多くの言葉を駆使しています。そこで、思考の過程がわかるように、浮かんだ言葉をノートやワークシートに書き出していく取組を行いました。可視化することでさらに児童の思考は広がったり深まったりします。

また、自力解決で生じた疑問については、対話を通して解決していきます。疑問を解決するために必要な情報を進んでメモし、自分の考えを深めていく様子が見られ、考えを確かなものにしていました。

柱１　【読解力向上の取組】実践例

全文シートによる音読、書き込みで自分の読みをつくる取組
～ 八代市立八千把小学校（本校所属巡回型ＳＴの取組） ～

○文章全体を俯瞰する自力読みの取組
○児童の読みの実態を的確に捉え、実態に応じた授業づくり



【全文シートに自分の考えなどを書き出しもの】
～５年国語たずねびと～

国語科の授業では、自力読みの取組として、児童が学習に入る２週間程度前から教科書の音読を始めます。その後、児童が教科書の音読に慣れてくると、左図のような全文シートを使い、文章全体を俯瞰しながら音読するようにします。そして、重要語句にサイドラインを引き、自分が考えたことなどを記入していきます。

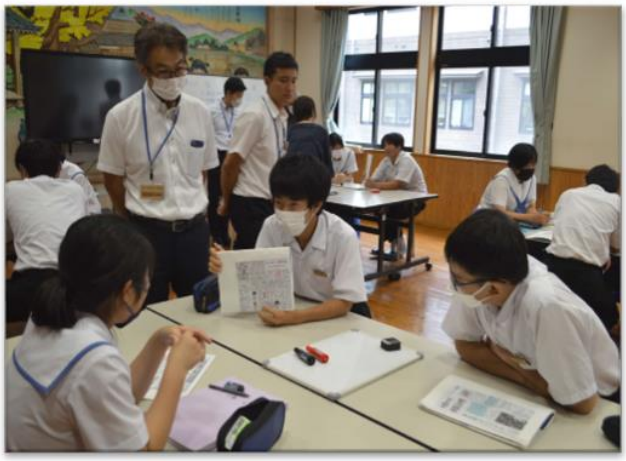
また、教師は児童の全文シートからそれぞれの書き込みの状況を分析します。そして、個の読みと学級全体の読みの実態を捉え、授業づくりにいかします。児童がどのようなことに疑問を持っているのか、注目している言葉は何かなどを把握することで、児童の側から教材を分析し、学習課題の設定等に役立てています。

これらの取組をとおして、児童が自分の力で教材文を読む力を高めるとともに、児童の読みの状況に応じた授業づくりを行うことで、読解力の向上に努めています。

柱１　【読解力向上の取組】実践例

読解力・コミュニケーション能力の向上を目指した取組
～ 五木村立五木中学校 ～

○日常的に新聞記事に触れさせることによる情報活用能力の育成
○毎週水曜日の「イツキングタイム」におけるコミュニケーション能力の向上



【五木ing Time（イツキングタイム）の様子】

ＮＩＥを教科学習や家庭学習につなげ、日常的に新聞記事に触れる習慣を確立することで、生徒の情報活用能力や多面的・多角的に考察する力を育成しています。

毎週火曜日の朝自習（１０分間）の時間に新聞記事を読み、感想を書いたり、記事にタイトルを付けたり、感想を互いに述べ合ったりする活動を行っています。

その活動を受けて、翌水曜日のイツキングタイム（２５分間）では、興味をもった新聞記事について、班ごとに発表し合い、考えを共有する場としています。

生徒が情報を主体的に探し出し、多様な見方・考え方に触れ、様々な価値観を理解する力や自分の考えを伝える力を身に付けることにつなげています。

柱２　【学校運営に関する助言の強化】実践例

管内の中学校・義務教育学校（後期課程）への学力向上対策支援訪問の取組
～ 球磨教育事務所 ～

○「熊本の学び」アクションプロジェクトの最終年度として、２つの柱である「誰一人取り残さない学びの保障」及び「教員一人一人の授業力向上」の実現に向けた取組
○球磨教育事務所指導主事が各学校の学力担当者及び教頭から取組状況の聞き取りを実施

【学力担当者から聞き取りをする様子】

管内すべての中学校・義務教育学校（後期課程）の学力向上及び授業改善を目指して、球磨教育事務所指導主事が各学校を訪問する積極的な支援を実施しています。

訪問の際には、次のような事項を確認し、指導助言を行いました。

- 各学校における令和５年度全国学力・学習状況調査の結果分析
- 学力向上及び授業改善に向けた取組の現状及びＰＤＣＡサイクル
- 定期テスト問題等における全国学力・学習状況調査等の問題活用状況
- 各授業におけるまとめ・振り返り・定着確認の実施状況

また、教育事務所に対する学校からの支援に関する要望も聞き取り、訪問後の支援につながっています。

柱２　【授業観察の習慣化】実践例

「８つのチェックリスト（授業省察シート）」を活用した改善状況の共有
～ 宇城市立松橋中学校 ～

○定期的に教師の自己評価を集計し、結果を可視化することで、授業改善への取組状況を全職員で共有
○「８つのチェックリスト（授業省察シート）を授業づくりの視点、授業参観の視点として活用

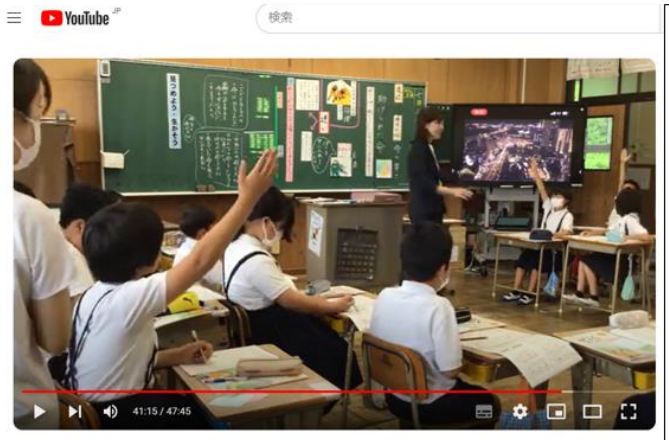
【８つのチェックリスト（授業省察シート）】

松橋中学校では「熊本の学び７つのチェックリスト」を基に、本校の共通実践事項である３つのキーワード（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を踏まえた「松橋中学校版『熊本の学び』８つのチェックリスト（授業省察シート）」を作成しました。この授業省察シートには、単元や一単位時間の各過程（導入・展開・終末）等において授業者（私は）を主語とした、「目指す子供の姿を引き出すための手立てを講じたか」をチェックする項目を追加し、授業づくり及び授業参観の視点として、全職員の共通理解の下、活用しています。また、定期的に、全職員が授業省察シートを使って自己評価（４段階評価）をしています。その結果を可視化し、授業改善への取組状況を全職員で共有しています。

柱２　【授業観察の習慣化】実践例

学び合いで授業力アップ～ＩＣＴを活用した授業相互観察の取組～
～ 山鹿市立八幡小学校～

〇研究授業中における他学級児童の自習時数を増やさず、教職員全員が相互に授業を参観して学ぶ機会を確保する取組
〇業務の状況に合わせて研究授業動画を視聴し、各自の授業改善に活かす取組



【本校教職員限定配信の授業動画の様子】

職員連絡用のMicrosoft Teamsに研究授業ごとに授業動画をアップし、本校教職員のみ自由に視聴できるようにしています。本年度は、１２月末までに１３本の授業動画をアップし、延べ約１９０回視聴されました。授業研究会後に出された意見を踏まえて動画を見直す、動画を参考に授業作りを行う、授業者が自らの授業を振り返るなど、活用の幅が広がってきています。

【活用に当たってのメリット】
①自分の業務状況に合わせて視聴できる。
②オンデマンドで全教職員が活用できる。
③無理なく続けられ、他教科への汎用性がある。
④教材・教具、発問、板書、学習形態、ＩＣＴの活用方法、学習規律等を確認できる。
⑤必要に応じて繰り返し視聴できる。

柱２　【授業観察の習慣化】実践例

日常の授業を参観し、互いに気付きを伝え合い、授業力向上を目指す取組
～ 山鹿市立鹿北中学校 ～

〇日常の授業において、ねらいを明確にした授業づくりにつなげる取組
〇教師同士が互いに気付きを伝え合い、効果的な授業実践へつなげ、授業力向上を図る取組

【学校独自の参観シート】

( )月( )日 教科( ) 授業者( ) 記入者( )

番号		観点	チェックリスト 子供の姿	チェック✓
1	日常	学級づくり	互いに失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりしている。	
2	単元	単元ゴールの姿	単元終了時の姿を共有している。	
3	単元	全体	「わくわく」など、知的好奇心や興味・関心を高めて学習に取り組んでいる。	
4	単元	導入	「なぜ」「おそらく」など、疑問をもったり予想したりして学習に取り組んでいる。	
5	単元	展開	「やってみよう」「なるほど」「きっと」など、見通したり納得したりして学習に取り組んでいる。	
6	単元	終末	「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組んでいる。	
7		自に応じた助導	自分の習熟度に合った課題などに取り組んでいる。	
※		ＩＣＴの活用	ＩＣＴの活用により、学び意欲が高まったり、学習の理解を深めたりしている。	
※		板書の工夫	板書を基に学習の流れを振り返っている。	

〇自ら学びたいと思える課題設定の工夫について

〇学習意欲を向上させるための工夫について

〇自らの学びを実感できる振り返りの工夫について

【導入部分を参観】

【班活動を参観】

特設の研究授業等ではなく、日常的に互いの授業を参観し、授業力向上を目指しています。また、「『熊本の学び』授業実践の７つのチェックリスト」をもとに、学校独自の参観シートを作成し、ねらいを明確にした授業づくりに取り組んでいます。

参観することが授業者の負担にならないように、項目を絞るなどの工夫をするとともに、授業のポイントを明確にし、生徒の主体的な学びが展開されるよう、授業参観後に意見交換を行っています。

年齢や経験年数に関係なく、互いの授業を参観する機会を計画的に設けることで、お互いの気付きを伝え合い、自分の授業の省察ができています。

その結果、教師が教科等の特性に合わせて、ＩＣＴを活用するなど、新たな視点での授業改善が行われ、より効果的な授業実践へとつながっています。

柱２　【授業観察の習慣化】実践例

日常的な授業観察及び指導・助言の取組
～ 水俣市立久木野小学校 ～

○月１回のミニ研究授業の実施と管理職による、事後の指導・助言

授業づくりチェックシート　水俣市立久木野小学校

６月２０日（火）１校時

５年　算数　「小数の倍」
６年　算数　「分数の倍」

複式指導の工夫（視点１）	選択	評価
ガイド学習・リーダー学習の充実		
手立て：各教科でリーダーを決めておく。	○	
期待される姿：間接指導の時に、リーダーが中心となって進めることができる。		
学習の流れのパターン化や可視化		
手立て：毎時間、授業の流れをタブレットに送っておく。	○	
期待される姿：１時間の流れを見通すことができる。		
タブレットの効果的活用		
手立て：交流をタブレット上で行う。	○	
期待される姿：考えを視覚的に共有ができる。		
単元で身につける力の共有		
手立て：単元の初めに学習する大まかな内容を共有する。	○	
期待される姿：学習に見通しをもち、粘り強く取り組むことができる。		

評価の工夫（視点３）	選択	評価
評価（指導に生かす・記録に残す）の精選		
手立て：		
期待される姿：		

【ミニ研究授業における授業づくりチェックシート】

複式学級における授業力向上を目指して、月１回のミニ研究授業の取組を実施しています。

このミニ研究授業は、事前に学習構想案等を準備をする必要はありません。参観をお願いする管理職（校長及び教頭）に、校内研究で取り組んでいる複式指導の工夫に関する視点の中で、今回特に大切にしたいことを伝えるだけです。

ミニ研究授業を実施した後は、管理職から、授業において効果的だった点や改善点などが書かれたアドバイスシートが渡されたり、直接伝えられたりします。

この取組は、複式学級における授業力向上に確実につながっています。子供たちの主体的・対話的で深い学びの姿が見られています。

柱２　【授業観察の習慣化】実践例

管理職や担任相互の授業参観とその成果の共有等の取組
～ 天草市立新和小学校～

○研究授業以外に、担任が相互に授業参観を行うことのできる仕組みづくり
○管理職や担任相互の授業参観での「参観シート」の活用や職員だよりでの指導・助言による授業改善

授業参観シート【導入場面】

記入者		授業者	先生
学年	（３）年/ひばり（　）年	教科	国

1　子どもたちの心を揺さぶる工夫…教師の話、図や写真・グラフ・よくない例の提示　等
□「なぜ」　□「おそらく」　□「できそう」　☑「ちがうよ」　□　その他
※当てはまる□もチェックしてください

※よかった点、改善案、お勧め　等を記述してください。
・案内手紙のよくない例の提示は、児童が本時に何を考えるのかを直感的につかめるよい方法だった。
・前時のふりかえりは、簡単に（例えば「何年ぶりかなんていう人がいる？」）して、先生が出してきた手紙、これでいいの？（よくない例）、できないが何だろう、ネックは？「あ！」「おかしいの主語を変えないと」

2　学習課題の工夫…子どもたちが、何をするのかが分かる・自分の考えが持てる

本時の学習課題＝　あんないの手紙に入れようなことは何だろう。

※よかった点、改善案、お勧め　等を記述してください。
・疑問点への提示はよい。課題解決方法にもなっている。　出川先生　全員自分の考えを持てるよう、児童が書いた練上り用紙で確認させたのはよい。自分が書いてなかったことを書き加えるのもよい。ただ1回限りのふりかえりだけなのでどうか。
・学習課題（考え方）「つけたしをしたいポイントを小さい紙に思いつくだけ書こう」と言うと、1回だけ実施しようというのでは分かる。教師が見ているなら（2つ以上書けない子）の手助けを入れる。

「2つ以上書きましょう。2つ以上書けたら、さて、2つ以上書けている人同士で確認しましょう」と言うと、1回だけ実施しようというのでは分かる。教師が見ているなら（2つ以上書けない子）の手助けを入れる。

【↓職員だよりの一部】

★★授業観察の中での気づき★★

先週、4年生とひばり学級を除く５つの学年の授業を参観させていただきました（いずれも導入の１０～１５分です）。よかったと思う点は以下の通りです。

○教科書にある２つの例を示し、違いを考えさせる。（視覚的に気づかせる）【1年】
○ＴＴ等な説明や前時の振り返り（児童の意欲的な発言につながっていた）【1、2年】
○案内手紙のよくない例の提示（子どもは何をするのか直感的に把握していた）【3年】
○ＩＣＴ機器の効果的な活用（話型の提示があったり、他者の意見を参考に自己の考えを形成できるように工夫があったりしていた）【5年】
○考える視点の確認（目的や条件に即した話し合いになっていた）【6年】
○学習課題が疑問文（課題解決型の授業にふさわしいもの）【全学年】
○身に付けさせる力を掲示し、児童と共有している。【全学年】

気になった点は、前時の振り返りに時間を掛けすぎている点です。４５分間の授業ですから、できるだけ早く学習課題に入り、本時の学習に入ることが必要だと思います。ポイントを押さえた振り返りが必要です。例えば

①どんなマグロだった？
②マグロは何をした？
③スイミーはどこに逃げた？
④スイミーはどんな気持ちだった？

→

①スイミーはどんな気持ちだった？
次のカードから選ぶと？
楽しい　かなしい
わくわく　こわい

「熊本の学び」アクションプロジェクトに基づいた取組の一つとして、日常的に管理職や担任相互の授業参観を実施しています。参観する時間は、第３学年以上の担任は専科の授業時間に、他学年は学力充実で他の職員が指導に来ている時間に、導入もしくは終末を参観しています。

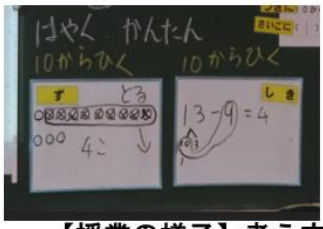
参観後は、授業参観シートにコメントを記入し、良かった点・改善点等を授業者に伝えられるようにしています。

また、校長による職員だよりで授業参観の中での気づきや改善ポイントを示したり、全職員で互いの授業づくりの良さを共有したりして、授業を改善していく意欲を高めるようにしています。

柱２ 【校内研修内容の重点化】 実践例

児童が「学びの主体」となる授業につながる取組
～玉名市立玉陵小学校～

〇児童一人一人が学び方を選択する自己決定の場の設定
〇研究授業における教師一人一人の省察と改善策の共有



【授業の様子】考え方の選択と学び方の選択

「熊本の学び」共同（自己）省察シート

【共同省察】	記入者＿＿＿＿＿＿＿＿ 授業日 6月 9日（金） 授業者 森崎 1：そう思わない 2：どちらかといえばそう思わない 3：だいたいそう思う 4：そう思う		
番号	観点	チェックリスト 子供の姿	評価 1234
視	①ゴールを見据えた単元構想	子どもたちは、これまでの徹底指導を行ってきた3時間の学習内容を活用しながら本時において能動的な学習を進めている。	
	②学習形態の工夫	子供たちは「学びの主体」として、自分にあった考え方や学び方を選択し、解決に向かったり考えを広げたりしている。	
	③（1）子どもが問いを発する場	子供たちは、これまでの学習内容を想起して、本時の学びのイメージを持ち、課題に向かっている。	

【省察シート】共通視点で研究授業を評価します。

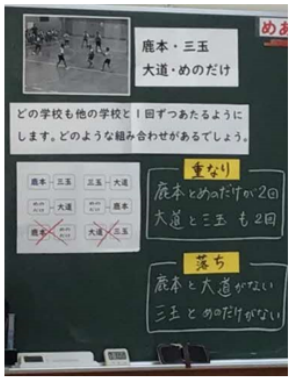
児童が主体的に学びに向かうために、「考え方」や「表現の仕方」、「学び方」を選択する「選択学び」を学習過程の中に設定しています。児童が自分に合った学び方を自己決定することで、学びを「自分ごと」としてとらえて学びを進められるようになってきました。

研究授業において授業者は、重点的に取り組む研究の視点と目指す児童の姿を示した省察シートを作成し、全職員で評価・分析し、課題の改善策を共有しています。そうすることで、全職員で共通実践を行いながら、教師一人一人の授業力向上につなげています。

柱２ 【校内研修内容の重点化】実践例

児童の「〇〇したい」が生まれ、生き生きと学ぶ算数科授業の取組
～ 山鹿市立鹿本小学校 ～

〇児童の「〇〇したい」が生まれる導入の工夫と、視点を踏まえた振り返りの工夫



【教材工夫した導入の様子】

左：数量の関係に着目させるための教材の工夫
（第６学年「文字と式」）
右：ハンドボール大会組み合わせ表を教材に活用
（第６学年「場合を順序よく整理して」）

児童が「もっと解きたい」「分かりたい」と主体的に取り組むために、日常生活や他教科とのつなげるような場面を題材にした教材の工夫をして、導入場面での問題提示を行いました。

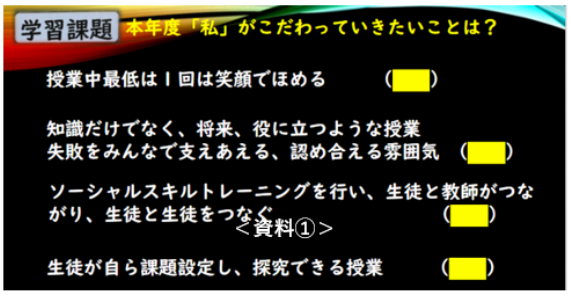
その結果、児童の興味・関心が高まり、問いを持つ際に、「おそらくこうなるだろう」「あれ、どうしてかな」と主体的に問題解決しようとする姿が見られました。

また、終末の振り返りの場面では、「かもと」をキーワードに「感想や分かったこと」「もっと調べてみたいこと」「友だちと学びあって」などの視点をもって振り返るように共通実践しています。

柱２　【校内研修内容の重点化実践例】

主体的・対話的な校内研修の工夫
～合志市立合志中学校～

○職員間の「対話」に重点を置き、「主体性」を引き出す校内研修の実施
○ＩＣＴを活用し、職員がお互いの実践をいつでも見返すことができる工夫



＜資料①＞

【資料①　PowerPoint等を活用した研修の記録】

【資料②　ICTを活用した協働的活動】

職員一人一人の主体性や課題意識を高めるために、「研究授業を見て、これから自分の授業をどうしていきたいか？」「今後、学校全体で充実させていくべきことは？」「定着率４０％未満の生徒への具体的な手立てや実践事例は？」といった「校内研修課題」を提示して研修を進めています。「本年度こだわっていきたいことは？」という課題に対しては、職員から資料①のような意見が出されました。

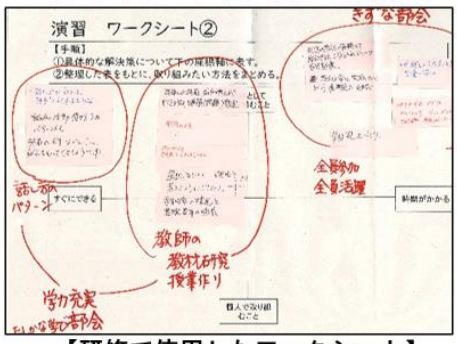
また、Jamboard等への書き込みなど、ICTを活用した協働的活動（資料②）を取り入れ、互いの実践を共有し合うことに重点を置いています。協働を重視した研修を行うことで、職員が主体的に研修に参加するようになってきました。記録はTeamsに残しておき、いつでも見返すことができるようにしています。

柱２　【校内研修内容の重点化】実践例

「熊本の学び」ステップ・アップ研修による取組
～ 阿蘇市立阿蘇西小学校～

○授業力向上を中心とした実践的研修
○「児童が主体となる『学び』の在り方」～児童が主体的に対話し、学び合う授業づくり～

【ステップ・アップ研修の様子）】



【研修で使用したワークシート】

校内研修の一環として、「熊本の学び」ステップ・アップ研修を活用し、校内研修の充実及び授業改善を図るための研修を実施しました。

演習をとおして、児童の『やってみよう』『なるほど』『きっと』（挑戦や納得解）が生まれる展開の工夫について具体的な例をもとに考えることができました。アウトプットの場を意識して設定したり、友達の考えを自分の言葉で伝えたりすることが効果的であるとともに、何より児童が安心して考えを伝え合える集団づくりが大切であることが分かりました。

教師一人一人の学びはもちろんのこと、各専門部会の取組に生かせる視点を学ぶことができ、児童が主体となる学びの在り方について、今後の方向性の確認や授業実践に向けての具体的な準備を行うことができました。

柱２　【校内研修内容の重点化】実践例

職員の全員参加による協働的な校内研修とその手法を授業に取り入れる取組
～ 嘉島町立嘉島中学校～

○全職員の意見交流を促進する「ラウンド・スタディ」を活用した校内研修

【校内研修の様子】

【ラウンド・スタディでの学び合いの様子】

主体的に学習に取り組む力を向上させるため、単元デザインや単元終了時の生徒の姿を明確にした単元シートを作成しています。職員全員で作成し、異なる教科の単元デザインを互いに確認し、意見を交流しています。そのために校内研修では、参加者がグループを変えながら数回のラウンドで対話をしながら学び合う「ラウンド・スタディ」という手法を取り入れ、職員自身も協働的に学び合っています。授業研究会などを通して、「主体的に学び続ける生徒の育成」についてどのようにアプローチするか、積極的に意見交流を行っています。

また、この学び合いの手法を各教科の授業でも取り入れ、主体的・対話的で深い学びにつなげています。

柱２　【校内研修内容の重点化】実践例

各学校の学力向上に向けた特色ある取組の共有化
～ 球磨教育事務所 ～

○球磨教育事務所主催「学力向上リーダー研修」において各学校の学力向上に向けた取組の情報交換を実施
○球磨教育事務所ホームページにおいて各学校の特色ある取組を公開

【学力向上リーダー研修の様子】

球磨教育事務所では、「熊本の学び」の理念の実現及び管内の学力に係る課題の解決を目的に、各学校の学力向上担当者を対象とした「学力向上リーダー研修」を開催しています。

今年度は、球磨教育事務所指導主事に加え、熊本県教育庁教育政策課及び熊本県立教育センター指導主事を講師として研修を行いました。

この研修では、各学校の特色ある取組の情報交換を行い、ＩＣＴ機器等を活用して取組の紹介をスライドにまとめました。

取組紹介スライドは、いつでも情報共有できるように、球磨教育事務所ホームページにて公開しています。

情報共有した取組は、各学校の取組の充実につながっています。

柱１・２ 【各学校の実態に応じた柱１・２の具体的取組】実践例

「芦北・水俣学力向上対策協議会提言書」に基づく各学校の実態に応じた取組
～ 水俣市・芦北町・津奈木町全小中学校 ～

○「熊本の学び」アクションプロジェクトの柱１・２と揃えた「芦北・水俣学力向上対策協議会提言書」に基づく、各学校の実態に応じた具体的取組

別紙１　「令和５年度　芦北・水俣学力向上対策協議会提言書」に基づく重点実践事項及び指標

学校名【　水俣市立水俣第二小学校　】

		芦北・水俣学力向上対策協議会提言書に係る具体的実践事項	自校における重点実践事項	指標（数値目標）
取組１ 学びの保障のための取組	一人取り残さない	① 授業等で週に１回程度は、個に応じた指導や習熟度別指導を行い、分かる喜びを実感させている。		
		② 漢字の読み書き・基礎的な計算について、学校全体で組織的に、身に付くまで粘り強く指導している。	夕活動において、県学力調査の課題であった問題に繰り返し取り組むことで、課題の改善を図る。	県学力調査の各学年の学校平均値が県平均を上回る。
		③ 単元ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているかどうか確認し、身に付くまで粘り強く指導している。	家庭学習において、過去学習した単元の「まとめの問題」を、適度な間隔を空けながら年間で平均４回以上繰り返し行うことで、既習事項の定着を図る。	職員の回答平均３．５以上を目指す。 ①４回は実施している　③３回は実施している、 ②２回は実施している　①ほとんど実施できていない
		④ 文旅を複製しながら「読む」、文旅に基づいて自分の考えを「書く」などの取組を各教科において実践している。		
		⑤ 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指して、内容・量の充実を図る取組を行っている。（「声北管内統一事項（家庭学習編）」の活用）		
取組２ 主体的・対話的で深い学びの実現による授業力向上の取組		① 児童生徒が各単元等の「ゴールの姿」に到達するように、学習を構想するとともに、授業・単元終了後は、結果を省察することを習慣化している。		
		② 単元や内容のまとまりの中で、「めあて」を設定し、学習の見通しを持たせるとともに、板書している。		
		③ 学習構想案の中に、様々な学習形態による学び合いを位置付け、児童生徒の考えを深めるため、教師が積極的にコーディネートを行っている。（「学び合いコーディネートシート」の活用）	授業において、対話活動を設定し、児童同士がアウトプットする場面を作ることで、児童の学び合う力の向上を図る。	児童の肯定的な回答、８５％以上を目指す。 ①よく発言している　②がいたい発言してる、 ③あまり発言していない　④ほとんど発言していない
		④ 単元や内容のまとまりの中で、めあてと関合性のある「まとめ」を行い、学習を振り返らせるとともに、板書している。		
		⑤ 単元や内容のまとまりの中で、基礎・基本の徹底や習熟を図る時間（過所問題を解く等）を設定している。	授業冒頭のフラッシュカード等の活用及び、授業終末の習熟の時間の確保により、基礎基本の徹底を図る。	職員の回答平均３．５以上を目指す。 ①週８回以上活用　②週４～６回活用 ③週２回以下　①ほとんど実施できていない
		⑥ 単元全体を見通し、児童生徒が学習ツールの一つとしてＩＣＴ機器（タブレットパソコン等）を積極的かつ効果的に活用できるようにしている。		
		⑦ 時間内に授業が完結している。	時間内に授業が完結している。	職員の回答平均３以上を目指す。 ①９割以上　②８割以上程度 ③７割程度　④６割程度
		⑧ 単元や内容のまとまりの中で、指導に生かす評価を適宜行い、十分な定着を見取ったよで記録に残す評価を行っている。		

【提言書に基づく水俣第二小学校の取組】

芦北管内では、「芦北・水俣学力向上対策協議会提言書」のもと、これまでも３市町が連携して学力向上に取り組んできました。

令和４年度から、この提言書を「熊本の学び」アクションプロジェクトの柱１・２と揃え、その具体的実践事項の中から、各学校が自校の実態に応じたものを選択し、重点化して取り組むこととしました。そのことにより、県、芦北教育事務所、３市町教育委員会、各学校の学力向上の方向性が一本化されたことになります。

各学校では、自校で設定した重点実践事項が着実に実践されています。また、中間評価、年間評価を行い、指標（数値目標）の達成状況を見取り、次年度に生かしています。